

ニットクニュース

# NITTOKU NEWS

No. 77

2021新春号

【特集】

鉢の上の小宇宙、盆栽。



## 1 ご挨拶

代表取締役社長 田谷 純

## 2~21 【特集】鉢の上の小宇宙、盆栽。

### INTERVIEW

#### 4 盆栽に学ぶ。

●タレント 山本彩加 (NMB48)

8 小さな大自然を鑑賞する。

13 暮らしに自然の彩りを。

18 器の中の小宇宙、苔テラリウム。



▲さいたま市大宮盆栽美術館



▲清香園



▲苔むすび



## 22~27 ●得意先を訪ねて

22 【東京・千代田区】日本ポリメント工業株式会社

24 【埼玉・狭山市】三協レジナス株式会社

26 【長野・伊那市】株式会社五十鈴

## 28~35 ●TOPICS

### ■お知らせ

28 ●第114期「定時株主総会」を開催

### ■塗料事業本部

28 ●ニットク・アメニティシステム連合会総会——  
「令和2年（第37回）総会」

### ■お知らせ

29 「海軍航空機用塗料色別標準」について、『モデルグラフィックス』片淵監督連載の調査・研究に協力

### ■自動車製品事業本部

30 「ガイアの夜明け」にて、古衣料リサイクルの取り組みが取材されました。

### ■自動車製品事業本部

30 武漢日特国防音配件有限公司 (WNA) 第3工場 (常福工場) 建設

### ■自動車製品事業本部

31 自動車技術会「技術部門貢献賞」を受賞

### ■塗料事業本部

32 「デフォグマジック」を発売

### ■塗料事業本部

34 ●技術レポート——「イソシールAC」「イソシールAC ZERO」

### ●新製品紹介

34 「ブルーフロンエコHG」

### ■お知らせ

35 『環境・社会報告書2020年版』を発行

## 36~41 街を彩るニットクの製品

### 『ニットクニュース』定期購読者を募集！

『ニットクニュース』の定期購読者を募集しています。ニットクニュースは当社が企画、制作し、年に2回（新春号・1月、夏季号8月）発行している広報誌（フリーペーパー）です。ご希望がございましたら、ホームページのお問合せフォームからお申し込みください。ご希望の宛先に直送いたします。

## ご挨拶

●代表取締役社長

田谷 純



ご健勝、ご清栄のうちに新しい年をお迎えのことと存じます。

本年が皆様にとりまして素晴らしい一年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。また、旧年中は格別のご高配、ご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。本年もご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年は春から、人類がこの100年で初めて経験する新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、経済活動・生活ともに大きな制約を受けました。残念ながら、いまだに収束の見通しがたない状況です。コロナウイルスと人類の戦いは長期化を覚悟せざるを得ない状況です。こうした中、コロナとの平和的共存が求められており、感染症対策と経済活動との両立に工夫を凝らしていく必要があります。

そうした環境で、弊社がさらなる未来を見据え、持続的に成長するためには、社是の創意工夫の下、皆さまのニーズにお応えし、新たな製品とサービスを開発し、提供できますよう、社員一同、研鑽を重ねて参ります。

さて、今年の世界経済は、新型コロナウイルスの動向が最大の関心事ですが、米国大統領選挙の結果を踏まえ、米中の貿易戦争の帰趨、北朝鮮、中東の政治的緊張など、多くの不安定要因を抱えて、予断を許さない状況が続きます。また、日本経済は、コロナ禍の影響度にもよりま

すが、昨年度の大きな落ち込みからの回復が期待されます。しかしながら、コロナ禍でクローズアップされた日本の問題点は、米国および中国企業等におけるデジタルビジネスの台頭に対し、日本のデジタル化推進（DX）における劣後という見方です。テレワークが常態化する中で、社会全体のデジタル化推進による生産性の向上がポストコロナの日本の飛躍にとって、極めて重要であるということは衆目の一致するところ

です。弊社の2大事業である自動車事業および塗料事業のターゲットは、環境問題への的確な対応、新市場を見据えた革新的な新製品の開発と提案、2大事業のシナジー効果による新市場の開拓等です。世の中が目まぐるしく変化する中で、皆さまからの一言一言を大切に、皆さまに喜んでいただける新製品のタイムリーな上市と新たなサービスの提供に邁進して参ります。

本年も、コロナ禍との共存の中、さまざまな問題、そして難しい局面もあるかと思いますが、皆様とともに、社員一丸となって、「One Team」で積極的にチャレンジさせていただきます。ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コロナの収束が、一刻も早く迎えられますことを祈念いたしますとともに、皆様のますますのご健勝と、ご繁栄をお祈り申し上げます。



特集

# 鉢の上の小宇宙、盆栽。

「盆」である鉢に、「栽」の植物を植え、その姿を鑑賞する「盆栽」。

その最大の特徴は、自然の風景を植木鉢の中に凝縮させるところにある。

鉢の上に再現された幹の肌、見事な枝ぶり、繊細な葉姿などの景観と、

四季折々に変わる表情が、鑑賞者を魅了する。

育成に時間がかかるため、かつては“熟年層の趣味”ととらえられていたが、

最近では自宅で味わえる趣味として若いファンが着実に増えている。

欧米でも人気を集め、その文化は「BONSAI」として世界に広まりつつある。

だれもが楽しめる「盆栽」を特集する。

「さいたま市大宮盆栽美術館」の「真の間」の座敷飾り。推定樹齢200年の双幹の「五葉松」が映える。



## 手をかけるほどに愛着がわく

盆栽との出会いは16歳の時で、知人について体験教室に参加したことがきっかけです。盆栽には正解もなければ間違いもないし、お花や草を添えてもいい。初めて知ることばかりでした。何の知識もない私が作ったものも盆栽と呼べるというのも面白いなと思いました。それまではお爺ちゃんが楽しむものというイメージでしたが、私みたいな高校生も作っていいんだって。思っていたよりもはるかに自由で楽しくて、続けたいくなりました。

私は大阪でNMB48というグループでアイドル活動していますが、ちょうど自分のキャラクターづけといいいますか、他のメンバーにはない個性を持ちたいと思っていた時期でもありました。以前から空手を習っているので、同じ“和”を象徴するものとして、自分のなかで盆栽がしっくりきたということもあります。

その体験教室の画像をSNSにアップしたところ、月刊誌「近代盆栽」の方が見て声をかけてくださり、「進め！ #盆栽女子」の連載がスタートしました。



「人生で初めて作った盆栽の写真です！初めてで、このようなものが手元に残って、本当に忘れられない作品になりました！」（写真提供：山本彩加）



初心者の私がゼロからテクニックを学んでいく企画です。連載は2年を超え、手がけた盆栽は40～50鉢くらい。手をかければかけるほど愛着がわいて、そ

こが観葉植物などとは違う魅力かなと感じています。

私の家の庭には桃や柿、イチジクや柑橘系の木がたくさんあって、母はお花を育てるのが大好き。子どもの頃から植物に親しんできたので、自然に盆栽への興味につながったのかもしれない。ひいおばあちゃんからは「シブイね」と言われましたが（笑）。

## 成長を想像して形を作る

連載で最初に手がけたのは、王道の黒松。といっても、鉢から黒松を取り出して植え替えるだけの作業です。盆栽は枝を切って整えていくイメージが

強かったので、こういうこともするんだと、とても新鮮でした。植え替えたり、肥料を与えたり、針金をかけて枝を曲げたり。手をかけることでどんどん形が変わっていくので、育てがいがあります。

連載を通して、本当にたくさんのことを学んでいます。例えば、盆栽には前と後ろがあって、それを自分で決めてから形を作っていきます。最初はどこが正面かまったくわかりませんでした。指導してくださっている先生が、まず自分で判断する時間をくださるんです。すると自分なりにいろいろ考えるので、多くの盆栽に触れるうちに、幹の流れや葉のつき方などで正面に適し



た位置がわかるようになりました。

一番難しいのは剪定です。苗木の成長は想像以上に早く、松は1年で葉が4倍くらい増えますし、春になれば

新芽もどんどん出てきます。1年先、5年先にどう成長するかを想像しながら、バランス良く剪定するのが悩みどころ。でも、それこそが盆栽の醍醐味です。決まりごとはないので、私が「ここをばっさり落としてみようと思います」と言った時に、先生から「思いつかなかったけど、いいんじゃない」なんておっしゃっていただけると、とてもうれしいですね。

盆栽に“失敗”はないように思います。少し切り過ぎたなと思っても、そこから新しい発想が生まれて形を作っていくこともありますし、何より植物は生きているので伸びます。苗木を増やす方法で、幹の皮をぐりと剥いで、そ

I N T E R V I E W



●タレント  
山本彩加（NMB48）

# 盆栽に学ぶ。



「上は、展示会で購入した苗木で、自分で育てて初めて花が咲いた時の写真です。下の写真も、自分で育てて花が咲いた時のもの！こんなにたくさん花がつくことは珍しいんです!!」（写真提供：山本彩加）



これから発根させる「取り木」という技術がありますが、しばらくすると本当に剥いたところから根がしっかり出てきます。木の生命力って本当にすごいと思います。

## 真っ赤なハートの鉢を使って

一番思い入れがある盆栽は、真っ赤なハートの鉢を使った黒松です。先生がイタリアで買ってきてくださったもので、赤は私の大好きな色。松と赤いハートは異色の組み合わせだと思いますが、想像以上にマッチして、好評でした。黒や深い緑色の鉢はどんな植物にも合いますが、赤や青や黄色の鉢を植物の前に置いて見ると、その木に合う色が必ずあるので、その組み合わせを発見するのも面白いです。

2020年秋に東京・上野で開催された「秋雅展」に、ハートの鉢を使った椿の盆栽を出品しました。これまでも何度



か展示会に出品しましたが、関東では初めて。少し華やかな雰囲気にしたくて、自分らしい盆栽をいくつか並べ、初の試みとして、種から植えた植物の成長記録も展示しました。盆栽展でほかの方の作品を見たり、先輩方のお話を聞いたりするのもとても勉強になります。盆栽展は難しいものではないので、初めての方でも気軽に楽しめますよ。これから盆栽を始める方は、まず盆栽

展や盆栽園でいろいろな作品を鑑賞してみるのもいいかもしれませんね。

## 新しい盆栽を提案

盆栽を始めたことで、モノの見方も変わりました。ファッションもその一つ。私はモデルの仕事もしていますが、以前はきっちりしたスタイルが好きでした。でも最近はアシンメトリーの服を好んで着たり、いままでは絶対に組み合わせなかった色のトップスとボトムスを合わせてみたり。盆栽も左右で違うほうが動きがあってきれいに見えるものが多いので、その影響だと思っています。洋服も着崩して、全体のバランスや色の取り合わせを楽しめるようになりました。

母と園芸店に行っても、私は苗木にばかり目が行ってしまいます。しっかりした幹や、いい具合に曲がった苗木を見つけると「盆栽に向いてるなあ」

なんて。先日、ホームセンターで「ソフォラ・リトルベイビー」というマメ科の苗木を買いました。盆栽には向いてはいませんが、細くてクネクネと曲がった枝が面白くて、部屋に飾ったらおしゃれだなと思って。そういうインテリアに合うかわいい盆栽を上手に育てられるようになったらいいなと思っています。

苔玉を作って、NMB48のメンバーたちにプレゼントしたこともあります。土を丸めて泥団子のようにして、まわりに苔を貼り、下に風鈴をつけてアレンジした苔玉です。「かわいい」と大好評でした。将来は、窓辺に飾りたくなるインテリア盆栽のようなものを提案していけたらいいなと考えています。盆栽は鉢によって表情がだいぶ変わるので、鉢のデザインもしてみたいですね。そのためにも、いまは盆栽の基礎をしっかり学んでいきます。



## 盆栽とともに歩んでいきたい

新型コロナの影響で学校が休みになった時は盆栽を楽しみました。苔を貼り替えたり、肥料を与えたりと、普段あまりできないことをじっくり時間をかけて。あんなに長く自宅にこもったのは初めてでしたが、盆栽のおかげで気が滅入ることもなく、心休まる時間が持てました。同時に、普通に生活が

できて、ファンの方たちとも交流できることのありがたさを楽しみ。コロナ禍で気づかされたことは多いです。私はいま、NMB48チームBⅡのセンターなので、メンバーを引っ張る存在にならなくてはいけないし、女優になることも大きな目標です。そして、女性として、一人の人間としての理想は、いくつになってもきれいでいること。外見だけでなく、生き方がキラキラしている人です。そのためには常に夢を追いかけて、その時その時を全力で楽しむことが一番大事だと思っています。一方で、盆栽は突っ走るだけではダメだよと教えてくれているようです。木や土に触れていると心が落ち着きますし、同じ手入れを繰り返すことの大切さや、想像力を持って長いスパンで物事を見ることも教えてくれます。だから私は、おばあちゃんになるまで盆栽と一緒に歩んでいきたいです。



「秋雅展」(2020年10月31日～11月3日)に特別出品された、山本彩加さんのハート鉢の盆栽作品。椿の幹模様の流れが美しく、花と鉢の赤の鮮やかな組み合わせを想像できる。「秋雅展」は、公益社団法人全日本小品盆栽協会が主催する関東最大の小品盆栽の展示会で、愛好家の丹精こめた盆栽が約100席並び、全国から約50の有名小品盆栽園が出展。会期中は国内外から多くの盆栽ファンが集う。同協会が主催し、2021年1月8日～10日に京都市勧業館みやこめっせで開催される「雅風展」にも、山本さんの盆栽が出品予定。



「秋雅展」での山本彩加さんの展示風景(上)。2020年3月に種をまいた実生の三河黒松、しだれ桜、山紅葉の苗(左上)や、挿し木のクチナシと根伏せの老爺柿(左下)など、山本さんが繁殖作業を手がけた作品のほか、美芸丸鉢に植えられた真柏の改作樹(右下)が出品された。



「自分で園芸屋さんで購入した、ソフォラ・リトルベイビーという木です。インテリア盆栽へ向けて作っています!」  
(写真提供: 山本彩加)



やまもと・あやか●2002(平成14)年、兵庫県生まれ。2016年、大阪・難波のNMB48劇場を拠点に活動する女性アイドルグループNMB48の第5期生オーディションに合格。現在はNMB48チームBⅡ所属。シングルCD『恋なんかNo thank you!』『だってだってだって』などをリリース。2020(令和2)年には映画『シグナル100』(東映)に出演。ファッション誌『Seventeen』(集英社)専属モデル。2018年9月から月刊誌『近代盆栽』(近代出版)で「進め! #盆栽女子」の連載がスタートし、幅広い層に盆栽の魅力を発信している。盆栽づくりに取り組む様子も、近代出版のYouTubeで公開されている。



# 小さな大自然を鑑賞する。

さいたま市大宮盆栽美術館

日本における盆栽の歴史は、およそ800年と古い。その盆栽を鑑賞しながら、文化や歴史、見方などを学べるのが「さいたま市大宮盆栽美術館」だ。日本唯一の公立の盆栽美術館として2010年に開館。訪れる人の層は幅広く、外国人も多い。盆栽の基本に触れながら、名品の数々を楽しんだ。



ロビーで出迎えてくれる「季節の一鉢」。屋内展示は週替わりで、毎週木曜の休館日に入れ替えが行なわれる。この日はバラ科の落葉小高木「鎌柄」で、5月頃に白い小花が房状に開き、秋には紅色の果実を結ぶ。

## 120点の名品を所蔵

埼玉県にある「さいたま市大宮盆栽美術館」は、2010年に盆栽の聖地として名高い「大宮盆栽村」に近接してオープンし、国内外から多くの人が訪れている。関東大震災（1923年）をきっかけに東京の盆栽職人たちが、盆栽に適した肥沃な土と水を求めて集まり開村したのが「大宮盆栽村」だ。現在、6軒の盆栽園と、この「大宮盆栽美術館」がある。美術館に入ると、ロビーで出迎えてくれるのが「季節の一鉢」。展示は週替わりで、この日はバラ科の落葉小高木「鎌柄」。枝が幹から左斜めに伸びた「鎌柄」を、来館者は裏側から眺めたり、下から見上げたりと、思い思いにその姿を愛でている。

「大宮は盆栽界でも特別な土地です。同じような規格の盆栽を量産している地域はありますが、ここは仕立ての地。さまざまな樹種や形の一点ものを扱っています」と語るのは、同館主任の五



ロビーの展示「鎌柄」。材が硬くて丈夫なため、鎌の柄に使われていたのが名前の由来だ。推定樹齢60年。樹形は枝が下垂した半懸崖。

味貴成さん。その大宮で、日本を代表する120点もの貴重な盆栽を所蔵し、屋内外合わせて常時70点を展示している館内を案内していただいた。

## 大自然を表現する盆栽

展示は屋内のコレクションギャラリーと、屋外の盆栽庭園からなる。盆栽は基本的には外で育てるもので、屋外展示を日常の“ケ”とすれば、屋内展示は“ハレ”。コレクションギャラリーは席と呼ばれる仕切られた空間に、鑑賞



屋内のコレクションギャラリーは、仕切られた5つの“席”に盆栽や盆器などが飾られている。盆栽が描かれた絵画や民俗資料なども定期的に展示。

石の水石や盆器（鉢）などとともに、盆栽が美しく飾られている。

枝が弧を描いて伸びている盆栽は、針葉樹の「真柏」。空に架かる橋のようになった偶然の美を一鉢にまとめたものだ。家屋を想像させる水石「茅舎石」を展示した席には、ザクロが描かれた掛け軸と、植物の斑入りイタドリも添えられ、秋のどかな田舎の風景を連想させる。「盆栽は育てるだけでなく、見てもらうことも重要視します。凝縮された大自然をイメージしたり、情景を作り上げたりするところが鉢植えと



幹が見事に弧を描いて伸び、空に架かる橋のようになった「真柏」。幹の半分は枯れて白くなった舍利で、葉の緑とのコントラストも美しい。



八瀬巣立真黒石の「茅舎石」に、ザクロが描かれた掛け軸と植物の斑入りイタドリが添えられ、秋の田舎の風景を連想させる。



「斑入り定家かずら」。枝が大きく下垂した懸崖樹形に仕立てた一作。定家かずらは初夏になると白色から淡い黄色のかぐわしい花を咲かせる。鉢の造形も見もの。





上左／座敷飾りの「行の間」。5本の幹の「もみじ」と月の掛け軸が飾られている。  
上右／「草の間」には山林の風景を感じさせる「櫃」。柱や框に異なる木を使うことで、限られた空間に広がりを出す。  
下左／最も格式の高い「真の間」には、双幹の「五葉松」。床柱は桎目の杉で、下框は黒漆塗り。  
下右／双幹の「五葉松」は推定樹齢200年。2本の幹と3つの梢で、風格の中にも軽やかさが漂う。

大きく違うところ」と五味さん。1席1席に表現された自然と季節の物語を鑑賞していくというわけだ。

さらに「自由に根を張れない状態で培養管理をするからこそ、木の生命力や力強さが生み出されます」とのこと。全体の造形美だけでなく、根の張り具合や幹の立ち上がりの力強さ、枝ぶり、葉の様子なども鑑賞の大切なポイント。そして、盆栽ならではの大きな特徴が

「神」と「舍利」だろう。枝が枯れて白くなった部分を神、同様に幹が白い部分を舍利という。「枯れた部分をあえて残すことで、生が一層引き立ちます。生と死の共存という世界観を生み出せるのも盆栽の魅力の一つでしょう」。

5席の展示の先には、3種類の形式の座敷飾りがある。手前から「行の間」「草の間」「真の間」で、「真」「行」「草」の順に格式が高い。座敷の格に合う盆

栽も決められていて、「行の間」にはモミジやカエデなどの雑木、「真の間」は松や真柏など松柏を飾るのが通常だそう。ポイントは、座敷の設えと盆栽、掛け軸、水石、下草などの取り合わせの調和。「真の間」には推定樹齢200年の双幹の五葉松が飾られ、全体的に風格が漂い、脇には長寿梅とコグマザサが添えられ、季節も感じられる。

“引き算の美”といわれる盆栽。座敷



推定樹齢800年の真柏「寿雲」。歳月を経た松や真柏は、幹や枝の一部が枯れて白い肌を見せることがあり、幹が枯れたものは「舍利」、枝が枯れたものは「神」という。傷まないよう手入れも大切だ。



盆栽には表裏があり、一般的には幹の立上りや枝の張り方がわかり、最も美しく見えるのが表。この黒松「獅子の舞」は表から見ると両手を広げ(左)、横から眺めると頭を下げている者を招いているようだ(右上)。幹が隠れるのが裏(右下)。



本館2階のテラス席から見渡す盆栽庭園。冬に落葉した姿や、春に花を咲かせる姿、秋の紅葉など、四季折々に変化する様子を見に、たびたび訪れるのも楽しいだろう。

飾りもシンプルゆえに、見る者がその情景を自由に想像して楽しめる点が大きな魅力だ。

## 人の繊細な技が生きる

屋外は中央に水辺を設えた盆栽庭園で、常時60点ほどが展示されている。推定樹齢が最も古いのが蝦夷松「轟」で、なんと1000年。幹の一部は朽ちて空洞

化しているが、青々と豊かな葉が茂っている。本来は寒さが厳しい北海道や国後島で自生する種だが、温かい土地でも盆栽として仕立てる技術を、「大宮盆栽村」の盆栽園のひとつ「蔓青園」が生み出したそうだ。

山もみじの盆栽は、色づき始めた葉



地上で面のようになった根が特徴的な、山もみじ「高雅」。5本の幹から伸びた枝に葉が豊かに茂り、下から見上げると大木感がある。

もさることながら、地上に盛り上がって面のようになった根が目を引き。鉢が浅いため下に伸ばせず、長い年月をかけてくつついたもので、根で大地を表しているという。他にも、巨龍が体をくねらせながら首をもたげて天に昇ろうとしているような五葉松「青龍」や、葛飾北斎の『富嶽三十六景』の「神奈川沖浪裏」の波を連想させることから「北斎」と名付けられた真柏の盆栽。さらに、総高1.6m、横幅1.8mを超え、美術館で最も大きな五葉松「千代の松」など見応えある名品が並ぶ。

元首相の佐藤栄作や岸信介らが所蔵し、「貴重盆栽」第1号に指定された「花梨」、同じく岸信介らが所蔵していた「いわしで」などもあり、盆栽を政財界の要人たちが支えてきた歴史を感じる。



美術館で最も古い推定樹齢1000年の蝦夷松「轟」。幹の中ほどが朽ちて空洞化している。樹齢は幹の太さや樹皮の荒々しさなどから推定される。





上左／五葉松「青龍」は、まさに巨龍が天に昇ろうとしているように見える。上右／真柏の「北斎」は、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」の波を連想させることから名付けられた。下左／岸信介が所蔵していた「いわしで」。秋には葉が鮮やかなオレンジ色になる。下右／美術館で一番大きい五葉松「千代の松」。人力での移動が困難なため回転式の台に乗せ、日当たりを調整している。

これらはすべて、盆栽技師が丁寧に手をかけている。不要な枝を切り落とす「剪定」、全体の形を整えるために枝や幹に針金をかけて形作る「針金かけ」、古い根を切り落として土を替える「植

え替え」などを定期的に行なう。また、太陽光が内側にも届くように葉を1枚1枚丁寧に切る作業などもある。毎日の「水やり」も土の状態を見ながら適度な量を与える細やかさが必要なのだそう。美しい芸術品を作り出す高度な“人の技”に、あらためて感心させられる。

## 広がる盆栽文化

盆栽は世界中に愛好家がいる、盆栽のワールドカップ「世界盆栽大会」も4年に1度行なわれている。2017年の第8回大会は1989年の初回以来の日本開催で、さいたまスーパーアリーナで行なわれた。五味さんによると「会場もこの美術館も外国人のお客様がとても多く集まり、日本ではないようでした。海外では若い人も“BONSAI”をアートとして楽しんでいます」。

大宮盆栽美術館では月1回のワークショップや盆栽アカデミーを開催し、20歳代から年配者まで、幅広い層が受講している。桜の盆栽を育てている人のなかには、花が咲くと行きつけのパ

ーに持参して“モバイルアート”のように楽しむ人もいたりとか。盆栽を病院に飾ることで、入院中の患者さんの気分がやわらぐこともあるという。「私自身、盆栽を始めて、季節の変化をよりいっそう感じるようになりました。家にいながら四季を感じられ、趣味としてお勧めです」と五味さん。

大自然を表現する盆栽は、人の心に寄り添い、イメージーションをかきたててくれる。2つと同じものがない、身近なアートである。



「さいたま市大宮盆栽美術館」は盆栽に関する調査や研究を行なうとともに、盆栽文化を発信し、親しんでもらうことを目的に設立。  
●さいたま市北区土呂町2-24-3／☎048-780-2091／9時～16時30分(3月～10月)、9時～16時(11月～2月)／休館日：木曜(祝日の場合は開館)、年末年始(臨時休館あり)  
<https://www.bonsai-art-museum.jp/ja/>



上／元首相の佐藤栄作や岸信介、実業家の根津嘉一郎らが愛蔵し、日本盆栽協会の「貴重盆栽」第1号に認定された「花梨」。  
下／太陽光が盆栽の内側にも届くように、1枚1枚丁寧にカットされた「いわしで」の葉。

# 暮らしに自然の彩りを。

## 清香園

木や草花を寄せ植えする盆栽が、女性を中心に若者にも人気だ。老舗盆栽園「清香園」が提案する「彩花盆栽」。一樹一盆の伝統的な盆栽とは異なり、初心者でも始めやすく、現代のライフスタイルにも合うのが特徴だ。「清香園」の5代目で、「彩花盆栽教室」主宰の山田香織さんに盆栽のある暮らしの魅力や、教室への思いをうかがった。



松とゴールテリアを寄せ植えた「彩花盆栽」。伝統の技を生かし、寄せ植えで自然をコンパクトに表現するのが「彩花盆栽」の特徴。竹を切ったような形の鉢に植え、正月飾りにもぴったりだ。



## 盆栽をもっと身近に

てのひらサイズの鉢に、赤い実をつけたコトネアスターと斑入りユキノシタが寄せ植えされ、地表には苔がこんもり。玄関や窓辺に置けば、寒い日も心がほっこりしそうな、かわいらしい一鉢。これも盆栽だ。

「大宮盆栽村」にある「清香園」は、江



鮮やかな赤い実をつけたコトネアスターと斑入りユキノシタを寄せ植えにした盆栽。赤い実は秋から12月頃まで楽しめ、5月頃に白い花をつける。

戸末期創業の老舗盆栽園。第二次大戦中の1943（昭和18）年に、原料の赤玉土が確保できて、しっかりした水脈もあることから、都内からこの地に移ってきた。伝統的な一盆一樹の盆栽だけでなく、20年以上前に複数種の植物の寄せ植えで自然を表現する「彩花盆栽」を提案。老舗の技で自然の風景を気軽にコンパクトに楽しめると人気だ。花や

実がなる植物を用いた彩りの良いものが多く、持ち運びしやすいサイズで、洋風のインテリアにも合わせやすい。

1999（平成11）年に開校した「彩花盆栽教室」は受講者が5000名を超え、その8割以上が女性。最近は「在宅ワークの癒しになる」「ステイホーム期間は手入れをたっぷり楽しめた」と、コロナ禍にあって、家に盆栽がある良さを実感する声も多いという。

教室を主宰する山田香織さんは「清香園」の5代目家元。「彩花盆栽」を提案したのは父親で4代目の登美男さんだが、香織さんが女性目線を取り入れ、より現代風にアレンジ。「基本を踏まえたうえで、見た目が華やかで、女性がときめくような盆栽をご提案して、お客様の裾野を広げたかった」そうで、教室を開くことから始めた。そのきっかけになったのが、嘉永年間（1848～1854年）に描かれた浮世絵だった。「菊



「彩花盆栽教室」の体験教室で、新春に飾る「彩花盆栽」にトライ。黒松と赤い実のゴールテリアの寄せ植えで、鉢も植物との調和を考え、竹に似た形のものを選んで新春らしさを演出。松は葉が斜め上方向に伸びたものが健康で状態が良い。広がり過ぎた葉や下に向いた葉は切り落としてすっきりさせる。植え付ける時は、黒松の幹のカーブが美しく見えるよう、ゴールテリアの配置に注意する。

屋という屋号の植木屋が賑わう様子にとっても魅かれました。盆栽の小売りをしていて、飲食店や植物園も併設し、そこに老若男女が集っているのです。清香園の先祖もその時代に創業しましたので、活気ある園芸の世界をもう一度目指してみたいと思いました」。浮世絵

に描かれた菊屋は、歌舞伎役者の3代目尾上菊五郎が大の盆栽好きで、副業で始めた植木屋だそう。

香織さんは夢を持って「彩花盆栽教室」を始めたものの、当時まだ大学生。徒弟制度も残る男性の世界で新しい事業の立ち上げは容易ではなかった。そ

んななか励みになったのが「香織さんになら、どんなことも気軽に聞ける」という受講生の声。敷居が高いイメージの盆栽を、自分が橋渡し役になることで、もっと身近に親しんでもらえると考えたのだ。

「清香園」の庭園に並ぶ数々の盆栽。冬から春にかけては梅や椿、桜が咲き、秋の紅葉も鮮やか。



5代目家元の山田香織さん。後ろの五葉松は初代から受け継いだもので、悩みがあるときに話しかけるそう。盆栽は年月とともにほんの少しずつ形が変わり、貫禄が増していく。「古い盆栽にはロマンを感じますね」。



入り口付近にはミニ盆栽を中心に苔玉なども並ぶ。小さいながら、どれも全体の形や枝ぶりが美しく、見応えがある。



## 彩花盆栽を体験する

「彩花盆栽教室」には体験教室もある。必要な材料や道具はすべて用意され、スタッフが丁寧に教えてくれるので、盆栽や土いじりの経験がない人も気軽にトライできる。

普段は見ることのない植物の根をほぐしたり、ドキドキしながら枝を切り落としたり、ふわふわの苔をちぎったり貼ったりしていく作業は想像以上に楽しく、出来上がりは感動的。植物によって根の張り方や枝の硬さ、香りなどが違うことにも改めて気づかされる。

作った盆栽は持ち帰れるので、自宅で育てる楽しみも。管理や手入れの方法なども教えてもらえるので、興味を持った方は挑戦してみてはいかがだろう。



テクニックだけでなく、創作する楽しさも実感できる体験教室は90分7,000円（材料費含む）。教室は、盆栽町本校、表参道校、大宮そごう校、日本橋三越校、新宿校の5カ所、各教室で1日体験が可能。通信講座もある。

●彩花盆栽教室 ☎0120-464-870  
<https://www.seikouen.cc/saika/>



## 苗と鉢を選ぶ

主役の苗はコトネアスターで、添える苗は斑入りユキノシタ。鉢は丸い碗形を選んだ。用意された土は赤玉土の極小粒と鹿沼土の小粒で、表面に貼るのはホソバオキナゴケ（通称「山苔」）。鉢には土の流出を防ぐために鉢底網を敷き、根を固定する針金も準備。根を切る時は専用の根切りばさみがあると便利。

## 剪定して形を整える

剪定は完成形をイメージして行なう。緩やかな横長の三角形を手で作る。そこから飛び出た枝や葉を切る。元気な葉の上5mmぐらいの枝を切るようにし、色の悪い葉も切り落とす。斑入りユキノシタは大きな葉をカットすることで、主役のコトネアスターが大きく見え、バランスがよい。



## 根をほぐす

苗の根元を手でおさえ、根の塊の角の部分から竹箸を使って根をほぐし、土を落とす。次に底面の土を落とし、最後は側面の根を髪をとかすように何度も上から下に竹箸を動かす。下の方の長い根の先はカット。黒くなった古い根を切ることで新陳代謝が促される。



## 植え込む

鉢に赤玉土を1cmほど入れる。苗は木と草の根の高さを揃えて束にし、正面を決める。そのまま一緒に鉢の中央に置いて、赤玉土と鹿沼土の混合土で植え込む。主役の苗が右斜めに伸びている場合、脇役は反対側に植えるとバランスがとれる。土の入れ方で苗の角度が最終的に決まるので丁寧に。



## 固定する



鉢底に固定しておいた針金で根を留める。苗に角度がついているため倒れやすいこと、苗がぐらぐらしていると枯れやすいため、針金での固定は大事なポイント。竹箸をさしながら土の隙間をしっかり埋めておく。

## 水をかける

じょうろでたっぷり水をやる。最初は土の粒が泥水となって鉢底から出てくるので、透明になるまでかける。じょうろは蓮口がついたものがよい。



## 苔を貼る



苔の裏の土をはがしてから、土の表面に貼る。苗の根元辺りからパズルをはめていくように隙間なく、重ならないように貼るのがコツ。風で飛んでしまわないよう軽く押さえて完成。苔は見た目が良いだけでなく、土を乾燥から防ぐ役目もある。

## 完成

置く場所によって印象もだいぶ変わる「彩花盆栽」。小さくて簡単に持ち運べるので、さまざまな場所で楽しめる。基本的には植物が好む日の当たる風通しの良い場所に。室内に飾る場合は3日程度まで。また、冬の底冷えや、夏の太陽の照り返しの影響を受けやすいので、コンクリートや地面には直置きせず、15～30cmぐらいの台や棚の上に置くことよい。



## 気軽に楽しむために

都会に暮らす人にこそ盆栽を楽しんでほしいと香織さんは言う。「鉢植えも植物を育てて観賞するのは同じですが、自然の風景を切り取って表現するのが盆栽です。清香園の家訓は『絵描きに負けるな』。つまり絵心を持って形をつくるということです。都会の方は緑への思いも強いと思いますので、枝ぶりをどう仕上げるかなど、ご自身のなかで自然をイメージしながら楽しんでいただけたら」。教室は盆栽町だけでなく、表参道や日本橋、新宿などでも開き、近年は中学生や小学生も受講している。

日常に盆栽を取り入れる良さについて「四季を感じられることはもちろん、一日1回は水やりのためにベランダや玄

関先に出るので、外の気温や湿度、風、光を感じて気持ちがいいし、生活にハリが出るという声をよく聞きます。世話をすれば、花が咲いたり実をつけた

りと木も応えてくれるので、皆さんどんなかわいくなっていくようですね」。

2006年から地元の小学校で普及活動も行ない、盆栽ファンの裾野を確実に



左／「彩花盆栽教室」は落ち着いた雰囲気の建物で行なわれる。教室前には材料となるたくさんの苗が並んでいる。  
上／彩花盆栽で使用する鉢。洋風インテリアにも合わせやすい、さまざまな色や形の鉢を用意。植物との組み合わせを考えながら自由に選べる。

に広げてきた。「参加した男の子が盆栽が大好きになって、高校卒業後に当園に入社してくれたことは、本当にうれしい出来事」と微笑む。

最近では、オンラインの講座や体験レッスンで国内外に盆栽の魅力を発信していて、この日も香港に住む日本人とインド人が受講していた。盆栽自体は海外でも手に入るが、手入れの仕方がわからないため、オンラインで学んでいるのだという。SNSによる海外での盆栽人気の広まりも、背景にあるだろう。

これから盆栽を始める人には「生き物だという思いで育て始めるといいと思います。ペットと同じように、植物にとって快適な場所はどこで、どんなことに気をつけ、道具は何かが必要かなど、店員さんと相談しながら準備してはいかがでしょう」とアドバイス。さらに「伝統的な盆栽は床の間に飾って、おもてなしをするための道具です。小さな彩花盆栽も、60cm四方程度の空間

に飾ったり、季節の小物を添えたりして“空間で見せる”ことを意識すると映えると思います」とのこと。

まずは小さな鉢から。盆栽を取り入れ、少しの手間をかけることで、日々の暮らしに潤いが生まれそうだ。



170年以上の歴史を持つ「清香園」。盆栽の販売や「彩花盆栽教室」のほか、盆栽のメンテナンスやレンタルも行なっている。  
●盆栽町清香園本店：さいたま市北区盆栽町268  
／☎0120-464-870／9時～18時（入園は17時まで。季節・天候により変動）／定休日：木曜日  
<https://www.seikouen.cc/>



# 器の中の小宇宙、 苔テラリウム。

## 苔むすび

苔の静かなブームが続くなか、近年、注目を集めている苔テラリウム。盆栽では脇役的存在で、道端でもよく見かける苔だが、ガラス容器の中では独特の世界観を生み出し、見る者を惹きつける。苔テラリウムをはじめ、苔鉢などのインテリア制作を手がけ、苔に関する教室も開いている鎌倉の「苔むすび」を訪ね、代表の園田純寛さんに苔の魅力をうかがった。心和む小さな緑の世界を、手もとに一ついかがだろう。



ヒノキゴケ、タマゴケ、オオシラガゴケの3種類の苔を使用した苔テラリウム。小さな透明のガラス容器の中に自然の風景を創り上げる面白さと、出来上がった世界観や苔の緩やかな成長を見守る楽しさがある。

### 神秘の世界をガラス瓶に

「室内で緑を楽しみたい方は多いと思います。苔テラリウムはわずか数センチの容器の中に緑をギュッと凝縮でき、小さくても十分に癒されます。現在のライフスタイルにマッチしているのではないのでしょうか」と語るのは、神奈川県鎌倉市で苔テラリウムの教室と販売を手掛ける「苔むすび」代表の園田純寛さん。長い年月をかけ、手入れをしながら育てる盆栽とは異なり、苔テラリウムは容器や置き場所に気を付ければ、ほとんど手をかけずに成長を楽しめるのも特徴だ。

古民家を改築した店内はアトリエと研究室も兼ね、多くの作品や資材が並んでいる。縁側の向こうには世界初の技術で施工したというミズゴケ湿原庭園もあり、ゆったりとした時の流れを

感じられる。オープンは3年ほど前。大通りからやや奥に入った場所にあるが、インターネットなどで苔に興味を持った人が多く訪れ、月20回以上は教室を開いているという。

園田さんが苔に興味を持つようになった原点が、中学1年の時に観たアニメ映画『もののけ姫』。舞台のモデルになった屋久島も訪れた。「苔むした森はとても神秘的で、まさに憧れの異世界でした。苔は、進化を遂げてきたほかの植物と違い、原始の姿をいまにとどめ、地球上に最も広く分布している植物ともいわれています。構造もとても繊細で美しい。マクロとミクロ、両方の視点ですごく魅力的です」と語るにこやかな表情から、苔への愛情が伝わってくる。大学院時代は苔を専門に研究し、海外でサンプリングも行なった。

会社勤めの傍ら、趣味で苔を育て始



左:特殊な技術で施工したミズゴケ湿原庭園。葉が色づき始め、鮮やかな緑から赤茶色になってきている。右:苔テラリウムの体験教室で使った3種類の苔。左奥がヒノキゴケ、右がタマゴケ、手前がオオシラガゴケ。いずれも育てやすく、葉の付き方や色、感触もそれぞれで、かわいい。



上:古民家をリフォームした、やわらかな陽光が差し込み落ち着いた店内で、苔テラリウム教室が行なわれる。ガラス戸の向こうにはミズゴケ湿原庭園が眺められ、棚には作品の数々。見ていて飽きることのない、気持ちのいい空間だ。

右:「苔むすび」の外観。妙法寺など苔スポットの多い鎌倉に3年前にオープン。店内の床や壁に飾られた苔アートを眺めるのも楽しい。



「苔むすび」代表で店主の園田純寛さん。北海道大学農学部で生物を学び、大学院で苔を研究。著書に『はじめての苔テラリウム』（成美堂出版）がある。穏やかな人柄で、苔の話も面白い。

めたのが10年前。苔テラリウムを自作し、退職後に花屋の軒先などを借りて何度かフリーマーケットを開いたところ、大人はもちろん子どもにも大好評。苔テラリウムが一般にはまだ知られる前で、「隠れ苔ファン」の多さに驚いたという。通信販売や苔教室も行ない、反響に手応えを感じた。

「苔は常に脇役だったので、“好き”を共有しづらかったのだと思います。主役にしてアピールすれば注目されますし、SNSに投稿すれば苔好きな人たちのつながりもできます。実際、投稿



## 苔テラリウムを作る

「苔むすび」の苔テラリウム教室は、手軽に楽しめる1回完結のワークショップと、継続しながら深く学べる講座の2種類あり、今回はワークショップを体験。約2時間で、材料費込み4,800円。決まりごとは特にないので、石や砂を使って苔の世界を自由に創り上げることができ、失敗してもすぐにやり直せるのがいい。苔にまつわる先生の話も面白い。



### 材料・道具を用意する

材料は苔3種類、容器、土、石。道具はピンセット、スプーン、ハサミ、木の棒など。水差しと霧吹きも使用する。容器は、高さ約14cm、直径約8cmのフタ付きガラス瓶を用意。



### 容器に土を入れる

焼いた赤玉石、ピートモス、パーミキュライト、もみがらくん炭を調合した土を容器に平らに2cm程度入れる。



### 石を配置する



好みの大きな石2〜3個を仮置きし、土を追加。手前を低く、奥を高く傾斜させると全景がきれいに見える。水差しを使ってまんべんなく水を与えて土を湿らせ、1分ほどしたら木の棒で軽く押さえて固める。

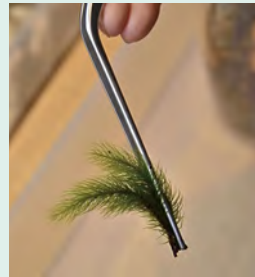
### 苔を揃える

一番大きなヒノキゴケから植え始める。数本を手でつまみ、植えた時をイメージして長さを調節し、根元側をハサミで切り揃える。1cm程度を地中に埋める。



### 苔を挟む

数本を束にした状態で、茎に沿って上からピンセットでつまむ。苔の末端とピンセットの先を合わせるのがポイント。



### 苔を植える

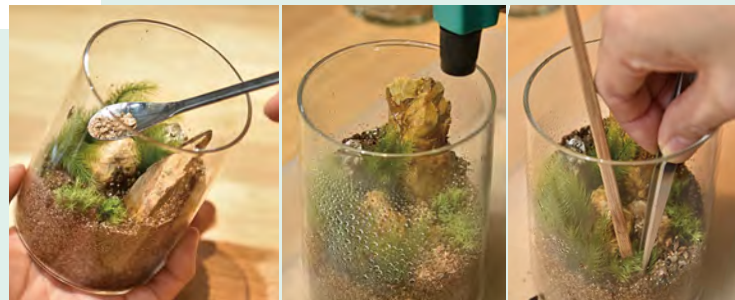


苔を垂直に植えていく。根元を1cm程度埋めたら、ピンセットを軽く広げて抜く。失敗したら苔を引き抜いて、木の棒で再度土を固めてから植え直す。緑が入ると景色が変わる。



次にタマゴケの束を裂いて小分けにして植える。植え方はヒノキゴケと同様だ。

### 化粧砂を入れる



アクセントになる化粧砂をスプーンにとり、こぼれないように容器を傾けて入れる。苔が乾かないよう、時々スプレーで水を与える。最後にオオシラガゴケをピンセットで植えていく。植える際、土が崩れる場合は反対の手で棒を持ち、土を押さえながら植えるとよい。

### 完成

霧吹きでガラス面や石についた土を落としてきれいにすれば完成。水やりは土が乾かない程度で、およそ2〜3週間に1度。苔は寒さには強いが、夏の直射日光は苦手。リビングやデスクなど、日光が当たらない明るい場所に置くのがよい。フタ付きのクローズドタイプはサウナ状態になって苔が死んでしまうため気を付けよう。1年ほどして葉が茶色くなったり伸びすぎたりしたら、カットしたり植え直しを行なう。



への反響は大きく、SNSの普及と苔テラリウムの認知度との連動を実感しています」。研究者でもある園田さんの知識や育成のノウハウをベースに、SNSでつながった苔好きが集う場所となったのが「苔むすび」だったのである。

### 手軽に自由に楽しめる

苔が好きという人のなかには、公園や山で採ってきた苔をすぐに枯らしてしまった経験があるかもしれない。苔は過酷な環境に強いイメージがあるが、

人の手で育てるのは非常に難しいそうだ。種類によって室内で育つものもあり、すぐに枯れてしまうものもあり、特に光や水の量は育成における大事な要素。さらに、水質が大きく影響することも最近わかってきた。水分を吸収



苔むすびでは、さまざまな苔テラリウムを販売。高さ6cm、直径6cmの一番小さい「おちょこけ」が1,700円で、大きいものでも数千円。ガラス容器や苔専用の水なども販売。ウェブサイトでも通信販売も行っている。



苔テラリウムの容器にはフタ付きのクローズドタイプとフタのないオープンタイプがあり、初心者には手軽に育てられるクローズドタイプがお勧め。水やりも2〜3週間に1度で大丈夫だ。

する根を持たない苔は、自然環境下では雨や霧が供給源。水道水や河川の水はミネラルを含んでいるため、カルシウムやナトリウムが蓄積し、傷みやすくなるという。しかし、密閉に近い状態で育てれば湿度が保たれ、水をあまり与えなくてよいため傷みにくい。「苔むすび」では専用のガラス容器や水も開発。これから研究が進めば、さらに苔が育てやすくなるかもしれない。苔テラリウム制作は、容器の中に土を入れ、石や化粧砂などを配置した後、ピンセットを使って苔を植えていく。



苔は葉から水分を吸収する。水分不足には比較的強く、干からびたように見えるスナゴケ(左)も、霧吹きで水をかけるとあっという間に元気になる(右)。



苔テラリウムに動物や人間のフィギュアを入れると、世界がグンと変わる。上の埴輪は同店オリジナルで600円。フィギュアも通信販売を行なっている。



作るうえで決まりごとは特になく、初心者でも手軽に楽しめるのがうれしい。「自然界を切り取って表現するのもいいですし、人工的なアート作品を作っても面白いですよ。自由度の高さも魅力です」と園田さん。人や動物などの極小フィギュアを配置すれば、一瞬にしてそこに物語が広がる。同店で販売している苔テラリウムは、フィギュア入りのものが圧倒的に人気だそう。かわいい地蔵と埴輪は、造形作家でもあ

るスタッフが作ったオリジナルだ。日常のふとした瞬間に眺めると、自分がもう一つ別の世界を持っているような不思議な感覚に浸ることができる苔テラリウム。好みの景色を小さな器の中に表現して、かたわらにそっと置いてみてはいかがだろう。

●苔むすび：神奈川県鎌倉市由比ヶ浜2丁目4-22  
／ ☎0467-38-8136 / 10:30~17:00 (店舗営業は水・土・日曜)  
<https://kokemusubi.com/>



# 日本ポリメント工業株式会社



これから補修・改修のニーズはますます高まります。とくにインフラ整備は重要になってきます。メーカーさんとユーザーさんの間に立ち、大手ディーラーにはない特徴を生かしながら、的確な材料をスピーディーに提供していきたいですね。

代表取締役 **佐々木 佑仁朗**



区の東側にある「東京駅」。日本の中央駅として多くの新幹線や在来線の起点となっている。



730(天平2)年、現在の大手町(将門塚周辺)に創建されたとされる「神田神社(神田明神)」の拝殿。“仕事運”や“商売”の縁結びの神社として親しまれている。

東京23区の中央に位置する千代田区。現在の皇居に江戸城が築かれ、徳川幕府の本拠地となって以来、日本の政治・経済の中心として発展しました。現在も主要政府機関や日本を代表する大企業の本社が多く置かれています。

＊ ＊

その千代田区に本社のある日本ポリメント工業株式会社をお訪ねし、代表取締役の佐々木佑仁朗さんにお話をうかがいました。

■創業はいつでしょうか？

●1968(昭和43)年です。先代の私の父親が鉛筆メーカーの開発部門から独立し、繊維壁に混入する人工骨材「ポリメント」を扱うメーカーとして創業しました。父親が皇居と同じ住所にこだわり、東京駅から1駅で地方のお客様にも気軽に寄っていただけることから、千代田区の“商人の町”神田に事務所を置いたようです。

■当初はどのような商材を扱っていたのでしょうか？

●「ポリメント」はその後、壁用クロスに代わられて需要がなくなり、接着剤やシーリング材を扱うようになりました。先代は商売人で、外壁を補修する

エポキシやウレタン樹脂をいち早く使い始め、防水建材を軸に幅広い商材を販売しました。レンゲスプーンをどんぶりの縁に引っ掛け、沈むのを防ぐ“切り欠き”の特許も持っていました。ただ、いまは先代からの防水建材の扱いは減り、2割ほどになっています。

■現在の取扱品目をお聞かせください。

●土木のコンクリート構造物・構築物やトンネル、道路、鉄道など公共のインフラの補修材料が7割です。樹脂系から塗料系、セメント系、繊維系まで、さまざまな種類の商材を扱っています。目立ちませんが、土木建築構築物の重要な材料だと思います。

■“何でも商売につなげる”の精神で、**どんどん新しい商材を**

■ご入社はいつでしょうか？

●2005(平成17)年、34歳になるときです。大学を卒業してゼネコンで土木関係の営業を経験した後、工事に3年ほど勤めてから入社しました。

■取扱品目の変化のきっかけをお聞かせください。

●先代の事業を継承するだけでなく、どんどん開拓したいという気持ちは強くありました。もっと多くのメーカー

さんの材料を覚え、さまざまなお客様のニーズに応えていければ分野が広がりますし、その面白さも感じていました。先代も“何でも商売につなげる”という考え方なので、後押ししてくれました。いま力を入れている炭素繊維も、私の代から扱うようになった商材です。

■どのような材料でしょうか？

●炭素繊維は自動車にも使われていますが、橋脚などの土木建築構築物の耐震補強に利用されています。これからニーズはどんどん増え、とくに土木の業界では著しく伸びていくと思います。

■社長ご就任はいつでしょうか？

●私が入社して2年目に父親が心筋梗塞で倒れ、社長に就任して代表権は持ちましたが、父親が戻ってから5年間は経営的なことは何もしていませんでした。私の意識では、41、42歳のころ、父親の代表権がはずれたときが実質的な社長就任だと考えています。

■営業方針をお聞かせください。

●メーカーさんとユーザーさん双方から認められる営業をしていきたいですね。現場運営と仕事を獲得するためのお手伝いをするという原点は忘れないようにと社員にも話しています。



皇居前広場から見た皇居正門石橋と正門鉄橋(二重橋)。新年や天皇誕生日の一般参賀時に開放され、渡ることができる。奥に見えるのは「伏見櫓」。

そして社員が喜びを感じる会社を目指しています。小さい会社ながらさまざまな業界にかかわり、原資となる市場はあるので、社員みんなを幸せにしていきたいですね。

■適切な薬の処方と治療法の提供。**医師のような役割も**

■エポックとなった出来事をお聞かせください。

●2017年に開催した創業50周年記念の祝賀パーティーです。これを機に父親が引退したので、意識が変わりました。世代交代を実感したのもこのときです。不安はありましたが大盛況で終わって、自信にもなりました。ふだんは電話で対応しているお客様に目の前で祝福していただき、社員のモチベ



本社が入るビル。「東京駅から1駅で多くのお客様にも寄っていただけ、“千客万来”の意味でも立地的に好都合だと思います。同じ神田界隈で、100mの範囲内で5回ほど引越しています」(佐々木社長)。



本社事務所。「会社の雰囲気は明るいと思います。48歳の私よりみんな若く、平均年齢は30代だと思います。若い方は伸びしろがありまし、一緒にいて楽しいですね」(佐々木社長)。

ーションにもつながったと思います。

■印象に残っている出来事をお聞かせください。

●夜間工事に立ち会ったとき、職人さんの手際の良さと仕上りの美しさに純粋に感動しました。給食センターの厨房をニットクさんの塗り床材「ユータックオリゴマー」で施工したのですが、一晩できれいに成形された厚みのある床は強く印象に残っています。

■ニットクとのお付き合いはいつからでしょうか？

●入社2年目の2007年、ニットクさんの製品がスペックされている現場を担当したときです。最初はウレタン塗膜防水材「ブルーフロン」でした。いまは塗り床材が多いですね。防水材と塗り床材はニットクさんをメインに営業しています。最近は舗装材・補修材「イソシール」もアピールしています。

■これからの業界に必要なと思われることをお聞かせください。

●インフラ整備、とくに補修・改修の必要性は増えると思います。とくに耐震補強の分野には大手ゼネコンさんも積極的に参入してきています。補修や改修は人間の体を治すのに似ています。骨折したときに絆創膏を貼っても改善

しません。状態を正確に見極め、適切な材料をメーカーさんに担保してもらう筋をつくるディーラーの役割も重要になります。補修・改修のノウハウを提供しながら、メーカーさんとの橋渡しをしていきたいと思います。

■これからの会社のイメージをお聞かせください。

●人と人とのつながりを大切にしていきたいですね。スピーディーな対応が求められますから、小さな会社ならではのフットワークの軽さ、判断・決断の速さを生かして、スピード感ある立ち居振る舞いをしていきたいですね。

■趣味をお聞かせください。

●大学でホッケーをしていましたし、2019年まで13年間、母校の監督を務めていました。問題が生じたときの選手と監督の乗り越え方は、ほとんど会社経営と同じです。社長としての考え方は監督業で培ったかもしれません。監督を退任してからはゴルフです。仕事だと思っていたのですが、最近楽しくなってきてよく行っています。

■本日はどうもありがとうございました。

## PROFILE

■日本ポリメント工業株式会社  
(関東甲信越ニットク・アメニティシステム会会員)

- 創業/1968(昭和43)年5月29日
- 資本金/1,000万円
- 代表者/代表取締役 佐々木 佑仁朗
- 所在地/〒101-0036 東京都千代田区神田北乗物町12番地 大竹ビル内  
電話 (03) 3254-8877(代)  
FAX (03) 3254-8836  
HP: <http://www.poriment.jp/>
- 取扱製品/コンクリート構造物補修・補強材(耐震補強・補修)、接着材、建物外壁補修・防水材、シーリング材、塗料、塗床材、モルタル・セメント建材、テープ その他
- 従業員数/11名



内濠(日比谷濠)から見た皇居方面(左)と、大手町ビル街方面(右)。一帯は都心にありながら緑豊かで、濠を取り巻く歩道はジョギングや散歩コースとして親しまれている。





# 三協レジナス株式会社

塗り床材の黎明期から携わり、  
塗り床工事に特化して45年間続けてきました。  
これからもお客様に技術と経験、知識を提供し、  
信頼関係をより強くしていきたいですね。

代表取締役 **池田 伸夫**



市内に点在する「狭山茶」の茶畑。狭山茶は「静岡茶」「宇治茶」と並び「日本三大茶」の一つに数えられている。茶産地としては冷涼のため、冬期に茶樹を十分休ませることで茶葉の厚さが増し、独特のコク味が出る。



狭山市に隣接し、「小江戸」の別名を持つ川越市のランドマーク的な建造物「時の鐘」（左）。戦災や震災を免れたため歴史的な蔵造りの町並み（下）などが多く残っており、年間約700万人もの観光客が訪れる観光名所になっている。



埼玉県南西部に位置し、「狭山茶」の産地として全国的に知られる狭山市。2つの工業団地があり、製造品出荷額が県下1位と、埼玉県有数の工業都市として発展を続けています。また、夏は関東三大七夕祭りの一つ「狭山市入間川七夕まつり」、秋は航空自衛隊入間基地で「入間航空祭」が開催され、多くの人で賑わいます。

＊ ＊  
その狭山市に本社のある三協レジナス株式会社をお訪ねし、代表取締役の池田伸夫さんにお話をうかがいました。  
■創業はいつでしょうか？  
●私の父親で先代の社長が1976（昭和51）年4月2日に創業しました。商社のサラリーマンとして商材を扱っていたときに塗り床材に興味をもって、40歳のときに施工店を始めたと思っています。販売するだけでなく、自分でも施工したいと思ったのではないのでしょうか。最初の数年間は自分で仕事を請けて自分で塗るという形で経営していたと思います。  
■社名の由来をお聞かせください。  
●3人で協力して会社を設立したことを意味する「三協」と、樹脂＝レジンを

扱うことから「レジナス」を組み合わせたようです。西新宿に事務所を構えてスタートしましたが、倉庫を設置できなかったため、自宅から近かったこともあり、20年ほど前に現在の場所に移り、倉庫も建てました。

## いち早く塗り床工事に特化

■当初から塗り床工事が中心だったのでしょうか？  
●創業当時から塗り床に特化していました。関東では早かったと思います。塗り床工事は基本的に屋内での作業ですので、天候にあまり左右されないという理由もあったかもしれませんね。防水工事も請けますが、多くはありませんし、屋根や壁を施工したことはありません。営業エリアは関東全域と広いのですが、他の分野を広げようという発想はなかったですね。  
■ご入社はいつでしょうか？  
●18年前、38歳のときです。その前は塗料関係の会社で営業管理をしていました。社長就任は4年前。52歳のときです。



「智光山公園」内の「狭山市都市緑化植物園」。バラ園などで130科550種以上の植物を観賞できる。公園内には「こども動物園」などもあり、憩いの場になっている。

■経営方針をお聞かせください。  
●当社のお客様の約7割がゼネコンさんで、あとの3割は地元の工務店さんです。北関東には塗装業者は山ほどいますが、そのなかから当社を選んでいたために、技術と経験、知識を上手に提供していきたいと思っています。わかりやすくいえば嫌われないように信頼関係を維持するということですね。40年以上続けられたのは、その関係があったからだと思います。  
■印象に残っている出来事をお聞かせください。  
●9年前、福島第一原子力発電所の廃棄物処理の事に携わったことです。危険とされながらも、当社の職人が積極的に参加してくれたことはうれしかったですね。廃棄された残土を保管する倉庫の床を約1万㎡施工しました。建物の中で作業できる時間が短いから、施工期間が7か月と長くなりましたが、イヤな顔をせず続けてくれました。  
■いま、社員は何名でしょうか？  
●社員は3名ですが、専属で6名の職人が関東圏を担当しています。私は管理者として現場に赴きますが、経験と知識が豊富な職人ばかりですので、基



香川県に次いで、うどん生産量全国第2位の埼玉県で愛されている郷土料理「武蔵野うどん」。太くてコシが強く、肉汁につけて味わうのが特徴で、食べ応えがある。

本的に現場は任せています。

## ニットクとの深い関係

■当初からニットクとお付き合いされていたのでしょうか？  
●個人的には30年前、大学を卒業するときにニットクさんの入社試験を受けました。先代の父親に勧められたのですが、落とされました（笑）。先代はサラリーマンの時からニットクさんの材料が好きでしたし、創業時から塗り床材「ユータック」を使っていました。  
■「ユータック」が開発されて間もないころからということでしょうか？  
●ニットクさんとは塗り床材の黎明期からお付き合いしていたと思います。先代の話では、先代がセメント瓦用塗料「スレコート」を床材へ応用していたことが「ユータック」の開発につながったと聞いたことがあります。実は、「ユータック」という商品名も先代が付けたというのです。詳細は分かりませんが、ただ、「ユータック」の誕生に携わ



本社の玄関前にも「ユータック」が塗装されている。

っていたのは間違いないようです。現在は「ユータックE-30」が多いですね。「ユータックE-40」「ユータックコンプリート」でもお世話になっています。素地調整材の取り扱いも増えています。  
■現在、塗料にはどのようなものが求められていると感じでしょうか？  
●短期間で仕上げられて臭いが少ない塗料が求められていると思います。ニットクさんでいえば「ユータックコンプリート」のような水性硬質ウレタン系の材料ですね。ユザーさんは施工中だけでなく、仕上がったあとに残る臭気などにとくに敏感です。アウトガス（揮発ガス）の情報などSDS（安全



本社社屋。

データシート）はネットで開示されているので調べればわかりますし、指摘されることも多いです。安全性や健康への配慮のニーズが大きいと感じます。  
■これからの業界に必要なと思われることをお聞かせください。  
●この業界は将来的に大きくはならないと思います。とくに施工店は細分化の繰り返しです。施工店はたくさんあるけれど、起業したのではなく、独立した会社がほとんどです。当社から独立した人間も多くいます。その意味で、当社規模の会社は人材確保が必要だと思います。  
■これからの会社のイメージをお聞かせください。  
●お客様も世代交代しますから、当社も対応していきたいですね。早く後継者を決めて、任せていきたいというのが本音です。  
■趣味をお聞かせください。  
●将棋です。会社にも将棋盤を置いていて、仕事の話が終わったら、お手合わせを願うこともあります。非公式ですが、藤井聡太とも対戦しました。夢の中でね（笑）。  
■本日はどうもありがとうございました。

## PROFILE

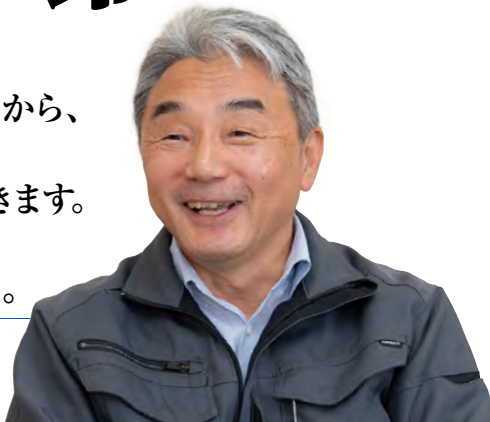
■三協レジナス株式会社  
（関東甲信越ニットク・アメニティシステム会員）  
●創業／1976（昭和51）年4月2日  
●資本金／1,000万円  
●代表者／代表取締役 池田 伸夫  
●所在地／〒350-1332  
埼玉県狭山市下奥富633番地の1  
電話（04）2952-8400代  
FAX（04）2953-9341  
●事業内容／塗床・防食・防水工事全般  
●従業員数／3名



# 株式会社五十鈴

建築の分野は、衣食住の住の部分ですから、ゼロにはなりませんし、良い対応をしていれば仕事の依頼は続きます。リピーターをどんどん増やして、お客様とともに成長していきたいですね。

代表取締役 **田辺 淳**



市内からは西にそびえる中央アルプスを望める。手前を走るのは飯田線。



伊那食品工業(株)の庭園「かんてんばばガーデン」内にある「野村陽子植物細密画館」。長野県箕輪町出身の野村陽子の植物細密画(ボタニカルアート)を無料で鑑賞できる。



伊那市で古くから親しまれている“ご当地グルメ”、「ローメン」。マトン(羊肉)とキャベツなどの野菜を炒め、太めの中華麺を加えた麺料理で、独特の風味を味わえる。

長野県の南部にある伊那市。東に中央アルプス、西に中央アルプスという2つのアルプスと、その間を流れる天竜川が形成する、雄大な景色が楽しめます。東京と名古屋のほぼ中間に位置することから、電気や精密、機械などの製造業が盛んで、アルプスから流れる水を利用した農業も発展しています。

＊ ＊

その伊那市に本社のある株式会社五十鈴をお訪ねし、代表取締役の田辺淳さんにお話をうかがいました。

■創業はいつでしょうか？

●1961(昭和36)年に梅雨前線豪雨「三六災害」があり、災害復旧の材料を販売したのが最初です。その後、株式会社五十鈴建材として再スタートしたのが1963年4月。当時は化成品の情報もなく、この地域で扱う業者もいませんでした。床材の次に防水材、外装材など、次々と新しい製品を取り入れて市場を拡大していきました。

■施工に取り組まれたのはいつでしょうか？

●何人か大阪の会社へ勉強に行って仕事を覚え、当初から、塗り床工事を始めたようです。高度経済成長期で、学校の建設が増えていた時代に内装も手

掛け、床を施工して歩き、全県的に社名を知られたようですね。

## 積極的な情報収集と新規分野の開拓

■業務内容をお聞かせください。

●市場が小さい地域ですので、個人のお客様でも相談があればなんでも対応するという“便利屋”ですが、基本は防水店です。売上としては、防水工事、吹付塗装、塗り床施工の順ですね。建築以外にも、浄化槽や排水処理などの設計・施工、維持管理に取り組んでいます。新規分野の開拓には積極的でしたね。環境問題にも早くから関心があったようです。社会情勢を把握するための情報収集にはいまでも注力しています。

■ご入社はいつでしょうか？

●1985年、23歳のときです。血縁関係もなく、近所に住んでいたので就職しました(笑)。当時から五十鈴は幅広い分野を手掛けていて面白そうだと思っていました。最初の数年は職人、そのあとは現場管理を担当しました。

■社長ご就任はいつでしょうか？

●2005(平成17)年です。44歳のときに3代目社長に就任しました。市場



本社事務所。

が縮小し、景気が後退していくなか、非常に厳しい経営状況になり、廃業するか続けるかの瀬戸際に立たされたときに引き受けてしまいました(笑)。

■どう立て直されたのでしょうか？

●松本と長野に支店を置いて県下全域を営業エリアにしていたが、別法人として独立し、営業エリアを長野県南部の「南信」地域に絞りました。事業も無理に広げず、それらのスリム化で売上を維持しました。

■経営方針をお聞かせください。

●仕事を生み出すのはお客様で、そのお手伝いをするのが私たちです。ですから、お客様の立場で考え行動し、一緒に喜べるような企業を目指しています。そのためにもファンを増やし、頼られる存在でありたいと思っています。

■印象に残っている出来事をお聞かせ



ください。

●県外の業者から、契約書も注文書もない仕事を口約束だけで請け、トラブルになったことですね。正当な支払いがされず、国土交通省に調停を申し立てたのですが、結局裁判で回収しました。正しいことは主張し、どんなに親しいお客様でもきちんと契約を交わすことが重要だという教訓になりました。

■お客様のニーズはどのように変わったとお感じでしょうか？

●いまは高機能で高品質、しかも低価格の製品が求められています。とくに、作業者にも安全な水性塗料が主流です。

ただ、実績のある製品のニーズもあります。お客様とよく話して要望を把握し、現場の状況を見て適している材料を提案すれば、高くても採用していただけます。当社はメーカーさんに近いので材料の比較もできますし、メリットも提案できます。たとえば、農業関係の施設を、ニットクさんの壁面防水材「ハイブルーフ」で施工しました。

■ニットクとのお付き合いはいつごろからでしょうか？

●1974年4月1日、複層模様吹付材「嵐山」が最初の取引のようです。その

あと、ウレタン塗膜防水材「ブルーフロング-100」、塗り床材「ユータックF」などでお世話になりました。私が初めて覚えた商品名でもあります。

## リピーターを生むことが成長につながる

■これからの業界に必要なと思われることをお聞かせください。

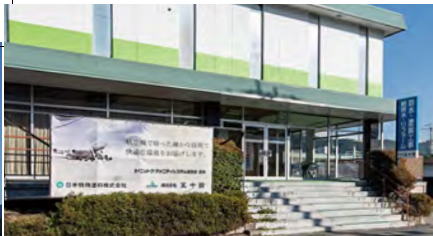
●ニットク・アメニティシステム連合会の会員憲章にもありますが、製・販・装が連携して情報を共有し、協力し合ってお客様のニーズに对应していくことが重要です。お客様の信頼を得てリピーターをつくるのが会社の成長と、お客様の喜びにもつながります。それがやがて良い循環になると思います。

■これからの会社のイメージをお聞かせください。

●当社は2021(令和3)年に創業60年を迎えます。続けられたのは地域の皆さまに愛されているからだと思います。これからも地域に密着しながら、身の丈に合った仕事をしていきたいですね。

■趣味をお聞かせください。

●地元の仲間25人と約7万9,000㎡



国道153号沿いにある本社。「社名の由来は、創業者が仲間と伊勢神宮に行ったときに見た五十鈴川の印象が強かったからと聞かれています。ただ、戦時中、創業者が必勝祈願によく行った隣の駒ヶ根市の五十鈴神社の言葉の響きが頭に残っていたという話もあり、はっきりしていません」(田辺社長)。玄関前に、日本特殊塗料のパネルが掲げられている。



㈱五十鈴が「ハイブルーフ」で施工したJAのカントリーエレベーター。「減農薬米づくりの活動が、この仕事につながりました」(田辺社長)。

の水稻で減農薬米づくりを20年ほど続けています。農家が高齢化し労働力も足りないので、草刈りや耕作管理などを手伝っています。業界も年齢も違う方と接することができて楽しいですよ。自宅で家庭菜園もしていますので、その作業で休日は終わります。それから、旅行や出張の際、神社を巡っています。御朱印帳も4〜5冊になりました。数年前の「ニットクニュース」の特集記事を活用しています。

■本日はどうもありがとうございました。

## PROFILE

- 株式会社五十鈴  
(関東甲信越ニットク・アメニティシステム会会員)
- 創業／1963(昭和38)年4月8日
- 資本金／4,000万円
- 代表者／代表取締役 田辺 淳
- 所在地／〒399-4431  
長野県伊那市西春近5836-1  
電話 (0265) 78-4331  
FAX (0265) 78-5653  
HP : <http://www.kk-isuzu.com/>
- 事業内容／建設関連事業(防水工事、吹付・塗装工事、塗床工事、金属工事、組積工事、防食工事、アスベスト対策工事、耐火・断熱工事、建築工事、土木工事)、環境事業(生活系排水処理施設、産業系排水処理施設、上水道施設、下水道処理施設、床暖房システム、建築設備・住宅関連設備の設計・施工)、メンテナンス事業(農業集落排水処理施設、公共下水道排水処理施設、浄化槽、特殊排水処理施設の保守点検・維持管理)
- 従業員数／27名



## ●お知らせ 第114期「定時株主総会」を開催

6月19日、東京都北区王子の「北とぴあ」において、第114期定時株主総会を開催しました。

コロナ禍において、緊急事態宣言の解除から約1カ月が経過していましたが、株主の皆様には議決権の事前行使による出席自粛をお願いし、最小限の人数で、厳重な感染症対策を行ないました。

具体的には、出入口にアルコール消毒液を配備、例年実施している来場株主様へのお土産の配布や会場前での飲み物の

ご提供、製品展示の中止に加え、受付係員はマスクとフェイスシールドを着用しました。また、役員を含む全出席者がマスクを着用、座席数を減らしてソーシャルディスタンスを確保し、換気のために出入口を常時開放するなど、来場者様には会場内外での徹底した対策にご協力をいただきました。

議事につきましても、議長席には飛沫感染防止のパネルを設置し、説明内容は一部簡略化させていただきましたが、議



長（田谷社長）による第114期の事業・決算内容の報告、決議事項の説明、その後の採決と滞りなく進行し、剰余金処分、監査役2名選任の両議案ともに多数の賛同を得て原案通り承認可決されました。

ご協力をいただきました株主の皆様には改めて感謝申し上げますとともに、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



▲ソーシャルディスタンスを確保して開催された株主総会。



## ●お知らせ 「海軍航空機用塗料色別標準」について、『モデルグラフィックス』片淵監督連載の調査・研究に協力

『月刊モデルグラフィックス』より、重要科学技術史資料(未来技術遺産)となっている、当社が所蔵する航空機用塗料見本帳「海軍航空機用塗料色別標準」について、取材を受けました。

アニメ映画『この世界の片隅に』で知られる片淵須直監督が月刊誌『モデルグラフィックス』で連載されている、「色のい

ろいろ／模型ライフを豊かに彩るための、色の博物史」12月25日号と1月25日号に掲載されます。

実は片淵監督は著名な軍事研究家というもうひとつの顔をもっており、同誌の連載では、旧日本軍で使われていた航空機などで実際に塗られていた色について、調査・研究された内容がつつられて

います。

片淵監督の研究成果は、博物館の展示品となる復元やレプリカ作製時の色彩指定には欠かせないものとなっています。今回の調査・研究が、模型などの楽しみ、そして文化財保護や振興のさらなる発展に寄与すればと考えます。



▲資料を閲覧される片淵監督



## ■塗料事業本部

### ●ニットク・アメニティシステム連合会総会—— 「令和2年(第37回)総会」

「ニットク・アメニティシステム連合会」(会員数466社)の令和2年総会を11月20日に、東京・天王洲アイルの「第一ホテル東京シーフォート」で予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、文書総会とさせていただきます。

#### ■文書総会議案

- 第1号議案：  
令和元年度事業報告承認に関する件
- 第2号議案：  
令和元年度収支決算報告承認に関する件
- 第3号議案：  
令和2年度事業計画(案)承認に関する件
- 第4号議案：

#### 令和2年度収支予算(案)承認に関する件

- 第5号議案：  
役員改選(案)承認に関する件
- 第6号議案：

#### 会則改定(案)承認に関する件

第3号議案で承認された令和2年度の事業計画は以下のとおりです。

- ①日本特殊塗料のすべての塗料・工法の採用に取り組んでいきます。
- ②今年度も引き続き、「シルビアセラティーN」「遮熱塗料シリーズ」「防水材」「塗り床材」の採用拡大に取り組めます。

③ニットク・アメニティシステム会各地区と日本特殊塗料の連携を密にして、効果的な運用により、顧客のニーズにより一層応えていきます。

④ニットク・アメニティシステム連合会ホームページの充実化をはかります。

⑤広告・宣伝活動および官庁、設計事務所などへのPR活動を推進します。

⑥ニットク・アメニティシステム連合会理事会を年3回開催し、効率的な会の運営をはかります。

⑦『ニットク・アメニティシステム連合会ニュース』を発行します。

第5号議案で承認された令和2年度新役員体制は以下のとおりです。

- 会長……………佐々木康之  
(東北／(株)佐々木商会)

- 副会長……………宮本英樹  
(四国／宮本防水塗装株)

- 副会長……………田辺 淳  
(関東・甲信越／(株)五十鈴)

- 理事……………前田卓哉  
(北海道／札幌ベック株)

- 理事……………野村達生  
(近畿・北陸／(株)野村塗装店)

- 理事……………牧野倉治  
(東海／新生建工株)

- 理事……………長崎和孝  
(中国／(株)長崎塗装店)

- 理事……………穂坂博史  
(九州／(株)ダイニチ)

- 理事……………鈴木裕史  
(日本特殊塗料株)

- 会計監事………西井博文  
(九州／(株)ニシイ)

＊ ＊  
令和元年度ニットク・アメニティシステム連合会表彰会員

#### ■日本特殊塗料(株)社長特別賞(2社)

(株)オキナワ技研(九州) ※20年連続  
(株)スギモト(九州) ※10年連続

#### ■ニットク・アメニティシステム連合会会長賞(3社)

アサヒカラコン株(近畿・北陸) ※18年連続  
(有)マエダ化研(近畿・北陸) ※15年連続  
(有)村防水(九州) ※12年連続

#### ■日本特殊塗料(株)社長賞(20社)

(株)オキナワ技研(九州) ※20年連続  
アサヒカラコン株(近畿・北陸) ※18年連続  
九州防水株(九州) ※16年連続  
(株)ミカド(九州) ※16年連続  
(有)マエダ化研(近畿・北陸) ※15年連続  
新生建工株(東海) ※13年連続

(有)村防水(九州) ※12年連続  
(株)スギモト(九州) ※10年連続  
古賀工業株(近畿・北陸) ※8年連続  
(株)安河内工業(九州) ※8年連続  
(株)ナカムラ(関東・甲信越) ※7年連続  
小田建塗工業株(東海) ※7年連続  
(株)ハスナ(関東・甲信越) ※5年連続  
(株)駿河コーポレーション(九州) ※5年連続  
三協レジナス株(関東・甲信越) ※2年連続  
(株)深港美装(九州) ※2年連続  
(株)タナカペインティング(関東・甲信越)  
ナガエ塗装株(東海)  
菅産業株(九州)  
(株)オフィス・エスピーケー(九州)



## 自動車製品事業本部

## 「ガイアの夜明け」にて、古衣料リサイクルの取り組みが取材されました。

11月2日放送の「ガイアの夜明け」(テレビ東京系列)にて、ユニクロ(ファーストリテイリング)の環境への取り組みの特集があり、ニットクでの古衣料リサイクルの取り組みが取材されました。

ニットクではユニクロの古衣料を自動車用防音材にリサイクルしています。再資源化の流れは、SDGsの観点からも世界的に注目されており、当社もサステナビリティの一環で推進している取り組みです。

流れとしては、ユニクロが回収した古衣料を、関連会社のエヌ・シー・エスで反毛化。古衣料をマテリアルリサイクルとして、当社の東九州工場で自動車用防

音材に加工・製品化し、各種自動車メーカーに納入しています。

マテリアルリサイクルとは、再資源化ともいい、廃棄物を資源として再利用することを主眼にしたリサイクルのことです。当社は古衣料のマテリアルリサイクルの分野においてはトップメーカーであり、自動車メーカーはもとより、各方面からその取り組みに注目が集まっています。

ユニクロのホームページ(<https://www.uniqlo.com/re-uniqlo/>)にも、環境への取り組み内容として、「自動車用防音材へのリサイクル」が紹介されていますのでご覧ください。当社はこれからも、環境

への取り組みを積極的に推進してまいります。

## CLOTHING TO MATERIALS

## 自動車用防音材へのリサイクル

回収した古衣料を、反毛化して繊維質を抽出し、自動車用防音材の原料として再利用しています。この取り組みにより、古衣料のリサイクル率を向上させ、環境への貢献を期待しています。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

※反毛化とは、繊維質を抽出し、繊維質を抽出した繊維質を再利用することです。

▲ホームページ

## 自動車製品事業本部

## 自動車技術会「技術部門貢献賞」を受賞

公益社団法人・自動車技術会の技術会議リサイクル部門委員会で、政府関係者、自動車メーカー各社、大学関係者により、ニットクが長年推進している古衣料リサイクル事業が、社会貢献につながる事業であると認められ、「技術部門貢献賞」をいただきました。

現在、自動車に使用されている、ウレタン、ポリエステル、グラスウール、PETフェルト等の原油由来材料の置換材料として、古衣料のマテリアルリサイクル材を使用することにより、資源の有効活用、CO2排出やエネルギーの削減ができるメリットがあります。そのため、SDGsの観

点だけでなく、自動車メーカーにとってもメリットがある取り組みとなっています。

ニットクは、国内の古衣料市場において、マテリアルリサイクル量のトップメーカーです。そのため、環境省、国土交通省からも注目されていますが、日本での繊維品のリサイクル率(マテリアル、ケミカル)は10%以下にとどまり、多くは焼却処理されている状況です。

ニットクでは、リサイクルの課題に取り組み、さらなるリサイクル率の向上に貢献していきます。



▲賞状

## 自動車製品事業本部

## 武漢日特固防音配件有限公司(WNA)第3工場(常福工場)建設

武漢日特固防音配件有限公司(以下WNA)は、中国武漢市に3つ目の工場を新たに建設することが一昨年に正式に決ま

り、昨年の6月に建設工事がスタートしました。

第3工場(常福工場)は、第2工場として

建設された現在の本社(恵安工場)から、車で約30分の場所に位置します。やや遠いですが、日産の武漢工場や、本田の第

3工場までは第2工場よりも近くなります。将来の発展を見据えて、武漢政府から70,000㎡(約21,000坪)と非常に広い工業用地を購入しました。現在は、その約1/3のスペースを使って、第1期の工事をスタートしています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画より約3カ月遅れましたが、何とか6月に工事をスタートすることができました。11月時点で、工場棟の主要な工事はほぼ完成し、本年の1月初旬からは設備の据え付けが始まる予定です。4月末に

は竣工し、5月から一部の稼働を開始できるように各種の準備を進めています。

新工場は、カーペット等の内装部品を生産する工場として稼働します。

WNAは第3工場の建設を機に、ニットクの発展に貢献していきます。



▲建設工事中の第3工場



▲始工式



▲完成予想図



▲コロナ対策(体温検査)



▲作業風景





## 塗料事業本部

■フェイスシールド・メガネレンズ用くもり止め液  
「デフォグマジック」を発売

マスク着用時のフェイスシールドやメガネレンズのくもりを防止する、フェイスシールド・メガネレンズ用くもり止め液「デフォグマジック」を発売しました。

コロナウイルス感染症の蔓延により、マスクの着用は感染防止のみならず、マナーとなりつつあります。しかし、医療関係者や接客業などでは、マスクの上に

フェイスシールドも着用しています。医療関係者から、フェイスシールドは使い捨てでなく、洗浄して繰り返し使用していると聞きました。くもり止め加工

透明性に優れています。



抜群のくもり止め効果を発揮します。



されたフェイスシールドも販売されていますが、洗浄するとくもり止め効果が消失します。そこで、水性塗料の技術を活用することにより「デフォグマジック」を開発しました。「デフォグマジック」を塗れば、くもり止め効果が発現します。

「デフォグマジック」は、表面張力を可能な限り低下させることで、ハジキを防止して均一に塗布できるように設計されています。乾燥後は親水性の被膜を形成することにより、くもりを防止します。コロナ禍で尽力されている皆様のお役に立つことができれば幸いです。

ニットクDIYショップで絶賛発売中です。価格は1,650円(税込み)、ニットクの公式ホームページのバナーからもリンクしていますのでご利用ください。

## ■特長

- ①マスク着用時のフェイスシールドやメガネレンズのくもりを防止します。
- ②撥水加工のメガネレンズにも塗れます。
- ③透明な仕上がりで視界スッキリ。



- ④滴下してティッシュで塗り広げるだけ。飛散しません。

- ⑤フェイスシールド内面：約80回分  
メガネレンズ両面：約160回分

## ■効果

- 抜群のくもり止め効果
- 優れた透明性

## ■荷姿

24g/30ccポリ容器(専用化粧箱入り)

■動画サイトはこちらへ



## 「デフォグマジック」を東京都・北区医師会へ寄贈

開発したフェイスシールド・メガネレンズ用くもり止め「デフォグマジック」を、発売を前に東京都・北区に150個寄贈いたしました。これらは北区を通じて北区医師会、そして区内の各医療施設に配布されます。

これにより、9月、北区役所において、北区長・花川與惣太様より当社代表取締役・田谷社長に感謝状が授与されました。

コロナ禍で尽力されている皆様のお役に立つことを期待しています。



## 「デフォグマジック」Web発表会を実施

コロナ禍での発売ということで、業界各誌を対象にWeb発表会を開催しました。テレワークの実施に迫られる状況にあって、当社もテレワークの対応を進めていましたので、Teamsを活用して、Web発表会を実施させていただきました。

製品説明だけでなく、フェイスシールドに滴下する塗り方や、実際に塗り分けたフェイスシールドをお湯にかざしてくもり止め効果を見ていただきました。対面とは異なり、小さい画面で見にくい点がありますが、全員に同じ情報を提供できることはとてもメリッ



トのあるものと感じました。録画を配信するなど、さらにいままでは違った試みも検討していきたいと思っています。





## 塗料事業本部 技術レポート

# 「イソシールAC」「イソシールAC ZERO」

## 誰でも簡単に施工できる、「目地、ひび割れ充填剤」

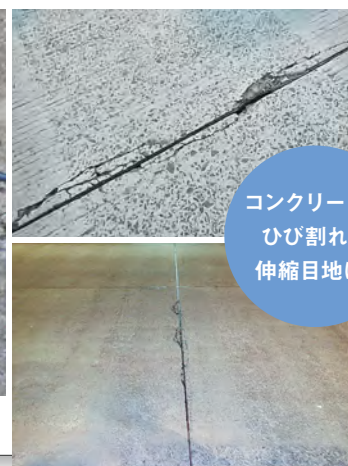
「イソシールAC」、「イソシールAC ZERO」は誰でも簡単に施工できる、ひび割れや目地などの空間や隙間を埋める液状の充填剤です。

ポリウレタ樹脂を主成分とした製品で、現場で調合した材料を隙間に流し込み、硬化させて使用します。調合した材料は、ひび割れの奥まで含浸しやすいように粘

度を低く設計しています。また、材料の硬化は速く、施工した数時間後には歩行だけでなく、車両走行も可能です。硬化したイソシールAC各種は、防水



▲施工中



コンクリートの  
ひび割れや  
伸縮目地に！



▲販促パンフレット

性、耐久性、耐摩耗性に優れ、振動にも強く、水の侵入を防止することができます。これにより、ひび割れの広がりが抑制されることで、道路や構造物の寿命を長くすることができます。

また、高速道路の安全対策としても多く採用いただいています。道路のひび割れで発生した破片や欠片は、車両走行による蹴り上げによって、後続車両に被害を及ぼすことがあります。フロントガラスが割れるなど、その危険性や被害は、車両の速度が増すほど大きくなってしまいます。

公共道路以外では、港湾地区において、アスファルト舗装やコンクリート面のひび割れ部、その取り合いや目地などの隙間に、外来生物法により特定外来生物に指定されている「ヒアリ（アカヒアリ）」

が巣をつくって問題となっています。このような隙間に、イソシールAC各種を充填しておけば、ヒアリの繁殖を防止することにもつながります。

イソシールACは、できるだけ簡単、手軽に施工ができるよう、ニットクでは初めての試みとなる、ハンディータイプのドロPPERボトルの荷姿をラインアップしています。容器内で400gを調合してそのまま施工できます。

これまでもお世話になっている塗装業者や防水業者に加え、土木工業者、営繕工業者などの皆様などにもお取り扱いいただける製品となっています。皆様の勤務されている工場や事業所はいかがでしょうか。ひび割れや隙間があれば、ぜひご検討ください。



▲荷姿（ハンディータイプのドロPPERボトル）

## 新製品紹介

### ■環境対応型高性能2液ウレタン塗膜防水材

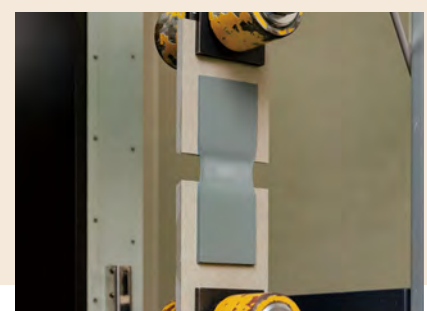
## 「ブルーフロンエコHG」

今回開発した「ブルーフロンエコHG」は、高レベルな柔軟性と強靱性を兼ね備えており、下地のクラックに対する抜群の追従性を有することから、防水材の破断による漏水から建物を守ります。さらに工程の省力化を実現できる新技術として認証され「建設技術審査証明」を取得した製品です。

### ■特長

#### ①ハイグレードな塗膜性能

ブルーフロンエコHGは、JIS A 6021



建築用塗膜防水材ウレタンゴム系高伸長形に合格しており、高い伸び率と高い引張強度を有しているため、抗張積は高強度規格（700N/mm）を超える1000N/mm以上と、よりハイレベルな性能を持っています。

#### ②工程の削減が可能

ブルーフロンエコHGは補強布を用いなくても、従来の補強布を用いた工法と同等以上の性能を有しているため、補強布張りの工程を削減でき、作業効率を大幅に改善します。

#### ③良好な作業性

ブルーフロンエコHGは、既存製品と同等の良好な作業性、レベリング性を有しています。

#### ④高い環境性能

ブルーフロンエコHGは、MOCA、鉛、クロムを配合せず、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則にも該当しない環境に配慮した製品です。

### ■荷姿

- ブルーフロンエコHG 主剤……8kg
- ブルーフロンエコHG 硬化剤  
夏型および冬型………12kg
- ブルーフロンエコHG NS 硬化剤  
夏型および冬型………12kg



▲販促カタログ

## ●お知らせ

## 『環境・社会報告書2020年版』を発行

7月に2020年版を発行しました。当社では環境に配慮した企業活動の報告として、『環境・社会報告書』を毎年発行しています。以下の項目について詳細に記載していますのでぜひご覧ください。

なお、『環境・社会報告書2020年版』は、今回から印刷冊子を廃止し、データのみでの発行としました。ホームページで一般公開していますのでご覧ください。

#### ①環境保全の基本理念、環境方針

- ②コーティング・ケア実施宣言
- ③環境マネジメントシステム ISO 14001
- ④グリーン調達ガイドライン
- ⑤環境配慮型製品の開発（該当製品の紹介）
- ⑥環境負荷低減に対する取り組み
- ⑦化学物質排出削減の取り組み
- ⑧GHS対応SDSの取り組み
- ⑨環境会計
- ⑩品質保証に関する取り組み
- ⑪安全衛生に関する取り組み
- ⑫コンプライアンスに関する取り組み
- ⑬地域社会との係わり

今後も企業としての環境に対する配慮や社会との係わりについて、皆様に適切で正確な情報提供を行なうとともに誌面の充実をはかっていきます。





# 街を彩るニットクの製品



■サンシャイン夢似(北海道)  
建築用塗膜防水材「ブルーフロン」PM-V20G工法/754㎡  
施工/㈱星塗装工業



■スカイビル高台Ⅰ(北海道)  
建築外装用塗料「ハイフルーフ」/1,378.7㎡  
施工/㈱星塗装工業



■当麻浄水場建築主体工事(北海道)  
塗り床材「ユータックE-30ECO」ハード流し展べ工法/479㎡  
塗り床材「ユータックVE-100」2プライミング工法/122㎡  
塗り床材「ユータックWE-400N」コーティング工法/187㎡  
建設/大野・西森経常建設共同企業体  
施工/㈱アイ・ディー・エフ



■古賀オール東北支店(宮城)  
屋根用遮熱塗料「パラサーモフッ素」/15,000㎡  
建設/ケーアンドイー㈱ 東北支店  
施工/㈱建装テクノ



■サンコービル(福島)  
外装用微弾性塗料「シルビアサーフ」  
+ 建築外装用塗料「シルビアNADシリコン」/2,000㎡  
施工/ヒロ塗装



■KAKINUMAアクア(群馬)  
プール用塗料「プールエース」/634㎡  
施工/㈱三橋塗装店



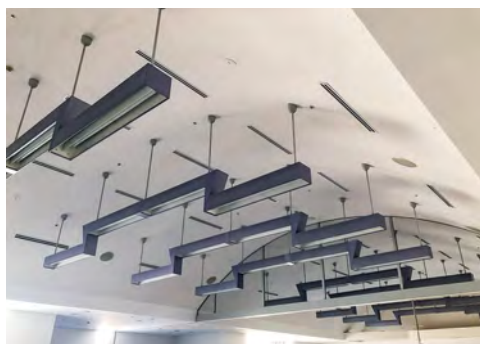
■埼玉スタジアム2002公園施設整備工事(埼玉)  
塗り床材「ユータックテクノONE」/7,200㎡  
建設/斉藤建設工業㈱  
施工/世紀東急工業㈱



■千葉県警察学校生徒寮屋上防水改修工事(千葉)  
建築用塗膜防水材「ブルーフロンバリュー」X-1工法/1,160㎡  
建築用塗膜防水材「ブルーフロンバリュー」X-2工法/298㎡  
施工/大和興業㈱



■船橋二和病院中病棟(東側部分)屋上防水改修工事(千葉)  
超速硬化塗膜防水材「NTスプレー」NN-SS30WS工法/1,300㎡  
建設・施工/㈱うつくしき塗装



■ニッセイ総合研修所(千葉)  
吸音天井材専用塗料「NTキューオンコートエコ」/約2,000㎡  
施工/㈱中村塗装店



■㈱サンジェニックス砺波工場(富山)  
塗り床材「ユータックE-30Nローラー用」コーティング工法/400㎡  
施工/㈱北陸装研



■夢科東急リゾートヴィラ大規模修繕工事(長野)  
建築屋根用遮熱塗料「パラサーモシリコン」1D棟/1,032㎡  
1F棟/1,104㎡  
元請/日之出建工㈱  
施工/㈱五十鈴



■SBS放送センター(静岡)  
建築外装用塗料「シルビア1液ハイブリッドセラ」/3,500㎡  
建設/静鉄建設㈱  
施工/岡田工業㈱



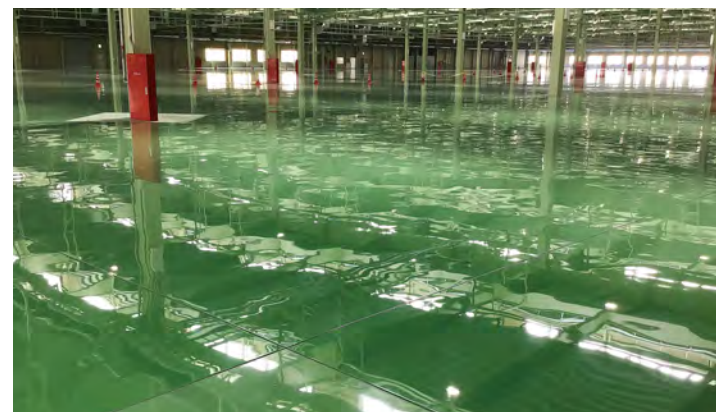
■山梨罐詰(静岡)  
塗り床材「ユータックコンプリート」CPL-8N工法/300㎡  
建設/㈱ティ・シー・アイ  
施工/㈱マイスター技研



■テクノハマ 工場および事務棟屋根塗装工事(愛知)  
屋根用遮熱塗料「パラサーモシリコン」  
工場屋根/7,982.1㎡  
事務棟屋根/1,297㎡  
建設/㈱眞栄  
施工/㈱市川塗工店



■旭製作所床改修工事(愛知)  
塗り床「ユータックE-30N」樹脂モルタル流し展べ工法/1,000㎡  
施工/㈱愛知レジン



■オディックス西尾 西浅井工場(愛知)  
塗り床材「ユータックE-30N」流し展べ工法/20,000㎡  
建設/山旺建設㈱  
施工/ナガ工塗装㈱、小田建塗工業㈱



■磯貝製作所西尾工場新築床工事(愛知)  
塗り床材「ユータックE樹脂モルクリヤー」(4mm厚)  
+ 塗り床材「ユータックE-30N」(平滑1.5mm、防滑1.5mm)/2,200㎡  
建設・施工/㈱筒井施工



■原塗装店自宅前通路(愛知)  
塗り床材「ユータックオリゴマー」景観舗装工法/60㎡  
施工/㈱大幸



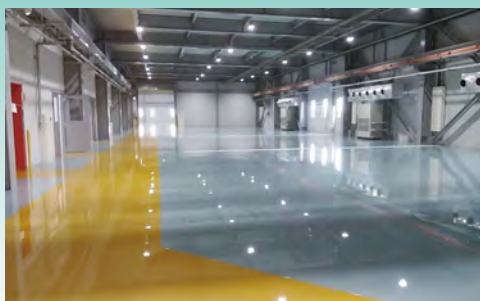
■戸建住宅屋根(愛知)  
屋根用塗料「NTスラリー瓦塗り替え工法」/180㎡  
施工/名倉塗装



# 街を彩るニットの製品



■神谷精密外壁工事(愛知)  
屋根用遮熱塗料「パラサーモシールド」(パラサーモフッ素仕上げ)/853㎡  
外装用微弾性断熱塗料「NTダンネツベース」+建築外装用遮熱塗料「パラサーモシリコン外壁用」/300㎡  
建設・施工/㈱第一塗装店



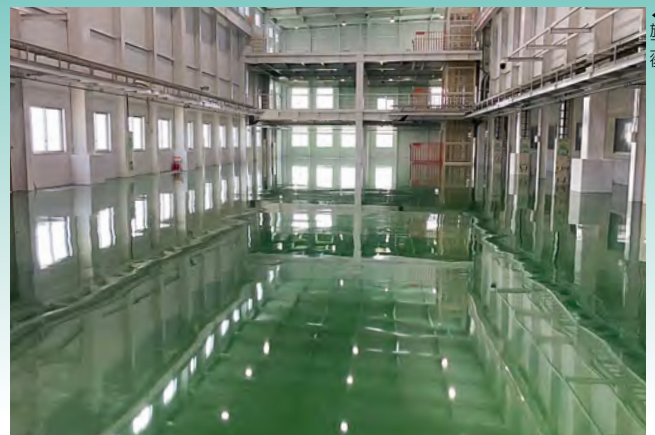
■某工場新築現場(愛知)  
塗り床材「ユータックE-30N」ハード流し展べ工法/2,544㎡  
建設/角文㈱  
施工/㈱納所床工業



■三光滋賀工場(滋賀)  
屋根用遮熱塗料「パラサーモシールド」(パラサーモシリコン仕上げ)/850㎡  
施工/㈱コーケン



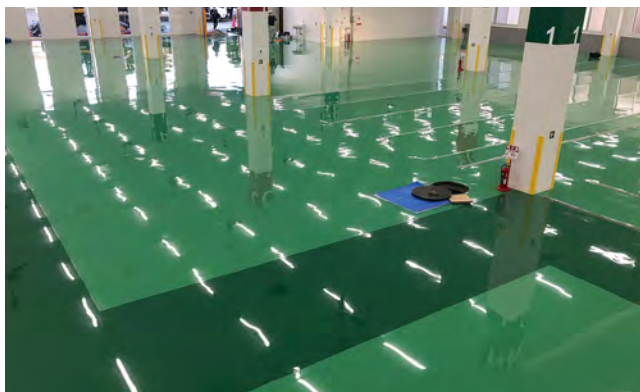
■某屋上駐車場防水改修工事(広島)  
超速硬化塗膜防水材「NTスプレータイプH」NC-SH30UTR/1,155㎡  
超速硬化塗膜防水材「NTスプレータイプH」NC-SH20UTR立上り/152㎡  
施工/㈱ポリテクノ



■某工場新設塗り床工事(広島)  
塗り床材「ユータッククリーンE厚膜」SD-1工法/1,600㎡  
建設/㈱ビルワークス  
施工/㈱フジイ



■門真物流センター(大阪)  
塗り床材「ユータックE-30N」ハード流し展べ工法/6,800㎡  
建設/雄健建設㈱  
施工/アサヒカラコン㈱



■大朋本社工場(大阪)  
塗り床材「ユータックE-30N」ハード流し展べ工法/2,000㎡  
建設/中川企画建設㈱  
施工/古賀工業㈱



■CCS冷凍倉庫(大阪)  
塗り床材「ユータックコンプリート」CPL-6N(新パウダー)/200㎡  
建設/㈱三共冷熱  
施工/㈱マエタ化研



■某球技場メインスタンド棟改修工事(兵庫)  
超速硬化塗膜防水材「NTスプレータイプH」NS-SH30UTR/NS-SH20UTR立上り  
建設/㈱ホリエ  
施工/棚田建材㈱姫路営業所



■某工場拡張工事(岡山)  
塗り床材「ユータッククリーンE厚膜」SD-1工法/287㎡  
施工/山樹エンジニアリング㈱



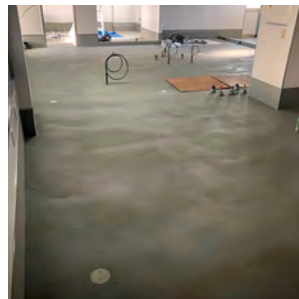
■某ホテル屋上防水改修工事(広島)  
建築用塗膜防水材「ブルーフロンエコ」PN-H30S、PD-H30S/140㎡  
施工/エヌ・ティーテック㈱



■某マンション外壁塗装(広島)  
建築外装用塗料「シルビアWS-300」/1,800㎡  
施工/㈱長崎塗装店



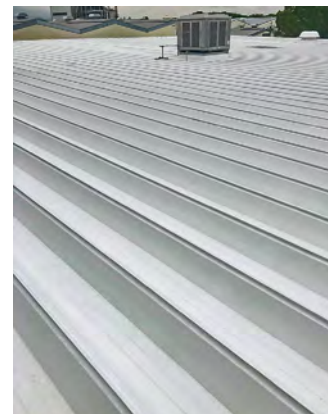
■バステルクボ外壁改修工事(山口)  
建築外装用塗料「シルビアセラティ-N」/800㎡  
施工/㈱日光



■山口県立周防大島高等学校寄宿舎新築工事(山口)  
塗り床材「ユータックコンプリート」CPL-6N工法/99.5㎡  
塗り床材「ユータックコンプリート」CPL-9N工法/4㎡  
塗り床材「ユータックコンプリート」CPM-T工法/12.62㎡  
元請/㈱ダイワ  
施工/㈱日光



■花田邸(福岡)  
外装用微弾性塗料「シルビアサーフ」+建築外装用塗料「シルビアセラティ-N」/112.6㎡  
施工/㈱福岡ペイントArt



■プリズトン甘木工場自動倉庫出荷場屋根遮熱塗装工事(福岡)  
屋根用遮熱塗料「パラサーモシールド」/1,225㎡  
建設/井樋建設㈱  
施工/㈱成清塗装



■九州職業能力開発大学校C棟屋上防水改修その他工事(福岡)  
塗膜防水材「ブルーフロン」PK-HG30G/1,000㎡  
施工/エイケン塗装工業



■丸小野寺改修工事(福岡)  
万能下塗り塗料「エボラオールプライマー」+屋根用塗料「リリーフNADシリコン」/500㎡  
施工/水江塗装



■長門石小学校教室棟外壁改修工事(福岡)  
外装用断熱塗料「NTダンネツコート」+建築外装用遮熱塗料「水性パラサーモ外壁用」/825㎡  
施工/コモダ塗装㈱



# 街を彩るニットクの製品



■大和塗装事務所外壁塗装工事(佐賀)  
建築外装用塗料「シルビアセラティーN」/250㎡  
施工/大和塗装(株)



■佐賀市某店舗塗装改修工事(佐賀)  
建築外装用塗料「シルビアNADシリコン」/700㎡  
屋根用塗料「ピチューロン」/600㎡  
施工/庄司塗装



■長崎市某商業施設通路改修工事(長崎)  
カラー舗装材「ユータックUグラウンドコート」(ユータックFT仕上げ)/85㎡  
施工/㈱丸菱工業



■佐伯市某組合建物外壁改修工事(大分)  
建築外装用塗料「タイルレシスト」標準工法/100㎡  
施工/広津留塗装



■大分市某クリニック屋根改修工事(大分)  
万能下塗り塗料「エポラオールプライマー」ホワイト遮熱  
+屋根用遮熱塗料「パラサーモシリコン」  
ココナツ/424㎡  
施工/㈱佐藤塗工



■ミツワハガネ床改修工事(宮崎)  
塗り床材「ユータックE-40」コーティング工法/897.2㎡  
施工/㈱エイエフ工業



■勝呂ビル外壁改修工事(長崎)  
建築外装用塗料「ハイブルーフ」上塗りフッ素仕上げ  
施工/㈱スリケン・プラス



■令和元年度人吉生産性向上協創拠点整備外壁改修工事(熊本)  
建築用塗膜防水材「ブルーフロン」X-1工法/635.7㎡  
建築用塗膜防水材「ブルーフロン」X-2工法/1,047.4㎡(立上り254㎡)  
施工/㈱米田塗装店



■水産研究センター本館棟他屋上防水改修工事(熊本)  
建築用塗膜防水材「ブルーフロン」X-1工法/4,071.9㎡  
施工/営産業(株)



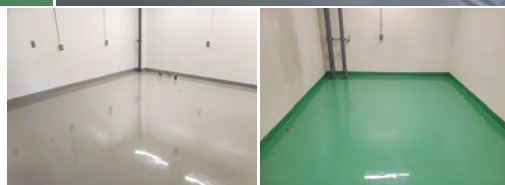
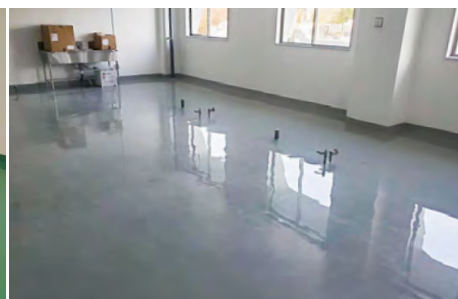
■玖珠町某学校給食センター(大分)  
塗り床材「ユータックE-30N」ハード流し展べ防滑工法/300㎡  
施工/梶原塗装(有)



■営産業事務所外壁塗装工事(熊本)  
建築外装用塗料「シルビアセラティーN」/150㎡  
建設・施工/営産業(株)



■大分県某大学床改修工事(大分)  
塗り床材「ユータックE-30N」流し展べ平滑工法  
1mm/1,000㎡  
施工/㈱西日本技建



■曾教2~8財部小学校屋内運動場非構造部材耐震化改修工事(鹿児島)  
建築用塗膜防水材「ブルーフロンエコHG」X-2相当仕様/875㎡  
設計/春田設計  
建設/㈱山田建設  
施工/㈱有明塗装店



■タウンパーク寿(鹿児島)  
建築外装用塗料「シルビアセラティーN」/800㎡  
建設・施工/㈱アリドメ



■医療法人がじまる会糸数病院外壁改修工事(沖縄)  
建築外装用塗料「シルビアセラティーN」/2,350㎡  
建設・施工/㈱オキナワ技研



■カミヤマ美研 西原貸倉庫外壁改修工事(沖縄)  
建築外装用塗料「シルビアセラティーN」/790㎡  
建設・施工/㈱オキナワ技研

## 改修工事予定の方をご紹介します。

ご紹介いただきました工事予定の方には、最寄りの安心できる「ニットク・アメニティシステム連合会」の施工業者様をご紹介します。お気軽に最寄りの営業所へお声掛けください。  
対象は、戸建て住宅、工場などの「内外装工事」「屋根塗装工事」「防水工事」「塗り床工事」などです。

## ●感謝の気持ちをお贈りします。

ご紹介いただきました工事が成約した場合、謝礼金として成約金額に応じて紹介料を施工業者様からお贈りします。





表紙イラスト/駒田寿郎

## 日本特殊塗料株式会社

|                  |                                         |                  |                   |
|------------------|-----------------------------------------|------------------|-------------------|
| ■本 社             | 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2                 | ☎(03)3913-6131   | ●FAX(03)3913-6183 |
| ■開発本部・<br>開発センター | 〒114-0003 東京都北区豊島8-16-15                | ☎(03)5390-0661~6 | ●FAX(03)3914-1085 |
| ■塗料事業本部          |                                         |                  |                   |
| 東京営業所            | 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2                 | ☎(03)3913-6203   | ●FAX(03)3913-6323 |
| 神奈川営業所           | 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10                 | ☎(0463)23-2135   | ●FAX(0463)23-3739 |
| 中部営業所            | 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12                 | ☎(0566)81-8111   | ●FAX(0566)81-8124 |
| 大阪営業所            | 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12                | ☎(06)6386-8492   | ●FAX(06)6338-3560 |
| 中四国営業所           | 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13             | ☎(082)423-8231   | ●FAX(082)423-8256 |
| 九州営業所            | 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726             | ☎(0942)89-5766   | ●FAX(0942)89-5762 |
| DIY販売部           | 〒123-0865 東京都足立区新田2-11-4                | ☎(03)3919-6001   | ●FAX(03)3919-6681 |
| 平塚工場             | 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10                 | ☎(0463)23-2131   | ●FAX(0463)23-3739 |
| 静岡工場             | 〒437-1612 静岡県御前崎市池新田4455                | ☎(0537)86-2491   | ●FAX(0537)86-7835 |
| 愛知工場             | 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12                 | ☎(0566)81-8113   | ●FAX(0566)82-4600 |
| 広島工場             | 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13             | ☎(082)423-3171   | ●FAX(082)423-3173 |
| 九州工場             | 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726             | ☎(0942)89-5661   | ●FAX(0942)89-5411 |
| ■自動車製品事業本部       |                                         |                  |                   |
| 営業統括部            | 〒114-0003 東京都北区豊島8-16-15                | ☎(03)5390-0663   | ●FAX(03)3914-1085 |
| 東日本第1営業所         | 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10                 | ☎(0463)23-2132   | ●FAX(0463)23-3739 |
| 東日本第2営業所         | 〒374-0024 群馬県館林市本町2-5-47 TM21 プラザ2階204号 | ☎(0276)75-1571   | ●FAX(0276)75-1578 |
| 中日本営業所           | 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12                 | ☎(0566)81-8112   | ●FAX(0566)82-4600 |
| 西日本第1営業所         | 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13             | ☎(082)423-3171   | ●FAX(082)423-3173 |
| 西日本第2営業所         | 〒824-0022 福岡県行橋市稲童484-3                 | ☎(0930)25-5091   | ●FAX(0930)25-6200 |
| 平塚工場             | 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10                 | ☎(0463)23-2131   | ●FAX(0463)23-3739 |
| 静岡工場             | 〒437-1612 静岡県御前崎市池新田4455                | ☎(0537)86-2491   | ●FAX(0537)86-7835 |
| 愛知工場             | 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12                 | ☎(0566)81-8113   | ●FAX(0566)82-4600 |
| 広島工場             | 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13             | ☎(082)423-3171   | ●FAX(082)423-3173 |
| 東九州工場            | 〒824-0022 福岡県行橋市稲童484-3                 | ☎(0930)25-5091   | ●FAX(0930)25-6200 |